

## 第2部 詳細計画策定調査

### 第1章 調査概要

#### 1-1 調査団派遣の経緯

ラオスの国家計画「第6次国家社会経済開発計画（NSEDP）2006-2010」では、教育をその重点分野として位置づけ、教育改革を通じた人材開発の質的・量的改善を目標として掲げている。また教育省は、2015年までの万人のための教育（EFA）、2010年までに初等教育純就学率90%をそれぞれ達成するべく、公正さとアクセスの改善、質とレリバンス（適切性）の改善、行政とマネジメントの改善を開発の3本柱として、具体的な行動目標を設定している。これに呼応し、JICA ラオス国別援助実施方針では基礎教育の充実を協力重点分野と位置づけ、教員養成機関の活用を念頭に置いて、教員の授業実践力の向上等の学校現場での教育の向上を目指した協力を行うことを方針としている。2008年に実施したプロジェクト形成調査においても、基礎教育分野におけるJICAの協力の方向性として、アクセス、質、マネジメントの3つの課題の中で、教員の授業実践力の向上を中心とした協力を行い、学校現場の教育の質の向上を目指すとしている。

これらの背景のもと、JICAは2004年から2008年にかけて実施された理数科教員養成プロジェクト（Project for Improving Science and Mathematics Teacher Training: SMATT）において教員養成校（TEI）の理数科教官の質の向上に取り組んできた。今回、この先行案件の成果を受けて、特に理数科分野において県・郡レベルで継続的に現職教員研修を実施できるような仕組み作りを目指すプロジェクトの要請があったことから、そのプロジェクト・デザイン形成のため詳細計画策定調査が実施された。

#### 1-2 調査団派遣の目的

調査団は、このプロジェクトの実施に向け、プロジェクト実施の妥当性を確認し、プロジェクト計画の内容についてラオス側の合意を形成することを目的に派遣された。具体的な内容は以下のとおり。

- (1) ラオス政府のオーナーシップとコミットメント及びラオスがもつ現職教員研修モデルに対するイメージを確認する。
- (2) SMATT（2004-2008）の終了時評価調査の結果を踏まえ、その後のラオス側で取り組んできた活動等について確認を行う。
- (3) プロジェクトのフレームワーク（プロジェクト目標、投入、実施体制、活動計画、投入、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）等）について、ラオス側教育省関係者及び他ドナーと協議、検討を行い、合意形成を図る。
- (4) プロジェクト開始までに行う作業及びそのスケジュールを確認する。
- (5) 日本側、ラオス側双方で同意した事項をミニッツとして取りまとめ、署名交換をする。

### 1-3 調査団の構成

担当分野	氏名	所属
団長	高島 宏明	ラオス事務所 所長
教育計画	又地 淳	国際協力専門員
協力計画1	浅野 寿美子	人間開発部基礎教育第一課 職員
協力計画2	岩崎 真紀子	ラオス事務所 所員
協力計画3	Anolack Chanpasith	ラオス事務所 ナショナルスタッフ
評価分析	原 芳久	株式会社 VSOC 第二事業部 部長

### 1-4 調査日程

2009年7月27日（月）～8月20日（木）

（コンサルタント団員以外の団員は2009年8月5日（水）～8月20日（木）（詳細は別添1のとおり）

## 第2章 プロジェクト概要

### 2-1 プロジェクト・デザイン

本プロジェクトは、学校内における教員の学びあいの場である校内指導活動<sup>1</sup> (Internal Supervision) を強化することにより、小学校教員の理数科目の指導力の向上を目指すものである。

ラオスでは、慣習的に学校内で校内指導活動を実施する例も見られ、また、2007年1月に発布された指導主事(PA)に関する大臣令で全国のPAに対して校内指導活動を推進することがうたわれている。プロジェクトでは、このような背景を受け、校内指導活動の中でも特に授業研究による校内研修に焦点をあて、校内研修で使用される教材を作成することと、校長及びアカデミック・ティーチャー(AT)の校内研修マネジメント能力や指導法に関する知識や技能を強化することによって、このような既存の仕組みを強化することを図るものである。

校内研修用教材としては、子ども中心の指導法を授業案として具現化した模範授業案、その授業案に基づいて実施された授業について授業検討会を行う際の討議のポイント等が具体的に書かれたものを作成する。

校内研修用教材については、2004年から2008年までラオスで実施された理数科教員養成プロジェクト(SMATT)において能力向上の対象となった教員養成校(TEI)教官が中心となって作成することにより、これまでのプロジェクトの成果を活用しつつ、同時にこれら教官の能力の強化を図ることを目指している。

また、校内研修において主要な役割を担う学校長と校内指導教員のマネジメント及び指導技術に関する能力を強化し、さらに上記の校内研修用教材の使用を通じて、校内研修の質を高めていくことが期待される。

校内研修マネジメントについては、学校長向けの校内研修の実施の方法について具体的に書かれたマニュアルを作成し、校内研修マネジメントに関する研修会を行う。これに加え、既存の校長会等の機会を活用し、優良実践例の共有や課題解決の方法等を話し合う場を年に数回程度設けることとする。

### 2-2 プロジェクトの基本方針

本プロジェクトでは、プロジェクト目標を達成する過程を通して、プロジェクト活動の成果が、ラオス側の人材及び資金だけでプロジェクト終了後も持続されるような仕組みが構築されることを重視する。したがって、特に以下の点に重点をおく。

- (1) 教育省はもとより、対象県及び対象校の強いオーナーシップがプロジェクトの成功のための重要な鍵となる。したがって、プロジェクトの基本方針として、自らの資源を動員してまでも、校内研修の強化を通して指導法改善に取り組む意思をもつ県、郡、学校を選ぶことが前提となる。
- (2) また、教育省は対象県の経験を他州に、対象県は県内の対象郡の経験を県内の他郡に、そして、対象郡は対象郡内のクラスターの経験を他クラスターに広げることが期待される。このようにプロジェクトは、他の地域へ広げるためのモデルづくりという性格をもつことから、プロジェ

<sup>1</sup> 学校内指導活動は多岐にわたるが、校長や校内指導教員による校内指導活動、優秀な教員による模範授業の実施、授業研究が主要な活動となっている。

クト期間中の対象校の拡大は段階的かつ慎重に行う。

- (3) 校内研修、クラスター研修の実施にかかる費用は学校及びコミュニティからの支援でまかない、県レベルの研修に関しては県政府が負担することを前提とし、既存の予算、もしくは、確実に確保できる可能性の高い予算の範囲内で持続可能なモデルを開発することを目指す。
- (4) 上記のようなラオス側の資源のみで持続可能な仕組みを構築するためには、既存の仕組みや既存の施設を最大限活用する必要がある。したがって、既存の仕組みの質的側面の強化に重点をおき、プロジェクトによって行われる投入は、基本的にはプロジェクト終了後もラオス側だけの努力によって維持可能なものに極力限定する。

## 第3章 調査結果

### 3-1 現地調査結果

#### 3-1-1 SMATTの残した成果

##### (1) SMATTの成果について

理数科教員養成プロジェクト（SMATT）は教員養成校（TEI）教官の能力向上に寄与し、ラオス教育省はその効果を高く評価している。TEI学長及び教官も、SMATTで習った指導法は、「いかにして子どもを能動的に学ばせるか」という点で、これまでラオスの教育にはなかった方法であるとの評価を示している。SMATTが実施される前には、いくつかのドナーが“New Teaching Method”あるいは“Active Learning”という表現で、指導法に関する研修を支援したことがあったが、その内容は理論が中心であり、理論を具体的に授業として組み立てるための手法についての内容は含んでいなかった。

夏期休業中に行っている教員資格アップグレード研修（Teacher Upgrading Program、以下「アップグレード研修」）<sup>2</sup>の中でも、各講義の担当教官がSMATTで学んだ子ども中心の授業の考え方を紹介、またはその手法を取り入れた講義を行っている。アップグレード研修は単位取得を伴うコースであるため、国立ラオス大学が作成したカリキュラムに従う必要があり、内容を勝手に変更することはできないが、可能な範囲で子ども中心の指導法について紹介しており、この手法を取り入れた講義については参加者の評価が高い。また、SMATTの成果品である指導書も、講義の中で活用されている。

##### (2) SMATTプロジェクト終了時評価調査における提言に対する取り組み

TEI学長や教官は、現在もSMATTで学んだ子ども中心の授業法を高く評価し、TEIの授業に取り入れるだけでなく、この指導法を小中学校の教員に広めたいという熱意をもち続けている。特に、サバナケット県TEIの学長は教員教育戦略・行動計画（TESAP）に示されたStrategy 5.3“Teacher education institutions will have a central role in reviewing the teacher education curriculum, organizing in-service training and upgrading programs with remote areas and ethnic groups prioritized in order to ensure professional and teaching standards.”を引用し、「これからはTEIが現職教員研修もすべて責任をもたなければならない。私たちはその仕事を果たすために準備を進めていく」と語っていた。また、Output 4.5にある“Issue decree to make TEIs responsible for upgrading and in-service but not for exclusive provision.”についても触れ、ここで計画されている教育省令が布告されるのを待っていると述べた。

また、その実施のためにTEIが県教育局（PES）や郡教育局（DEB）と協力・協調することについては特に異論がなかった。これについてはパクセTEI学長も同様であった。ただし、現職研修の運営は、基本的にPESが音頭をとって行うほうが、現場の運営は円滑に進むだろうという提案がなされた。これは元々、現職教員の指導はPESとDEBが行うのが基本であることと、TEI側はそれに応えるリソースの立場をとるのが適切であろうという理解からである。したがって、研修の実施については、PESからTEIに対して正式な依頼書を提出し、これをTEI学長が承諾するという手続きを踏むべきとのことであった。また、具体的な研修の計画については、PESあるいはDEB側から研修計画立案のための依頼を出し、TEI教官とPES、DEBのスタッフ、特に指導主事（PA）が共同で研修計画を練ることが望ましいという発言もあった。加えて、PESから正式な依頼があれば、長期休業中

<sup>2</sup> 無資格あるいは低資格の教員に対して行われる資格付与のための研修。

でなくても TEI 教官は講師として出かけることができ、月に 1～2 度の頻度であれば、代理講師を立てることや、補講を行うことも可能とのことであった。長期的な予定を組むことができれば、たとえば、PA とともに定期的にクラスターを訪問し、計画的に指導を行うことも可能である。

SMATT 終了後も、TEI 教官の主体的な取り組みによるワークショップがいくつか計画されてきたが、プロジェクト実施時と同様、資金不足により実際に行われたものはほとんどなかった。一方 TEI の経費で行う毎年のワークショップ（教育経験の共有を意図したもの）には、近隣の小中学校教員や他の TEI 教官を招く等して情報交換、意見交換の場として活かしている。また、教育省のカリキュラム改編に伴う説明会（教員養成局が実施）等の折に、他の TEI の教官と会い、情報交換を行うことができた。

指導書も TEI の授業で活用されているが、新しい単元の追加は行われておらず、たとえば類似の実験方法等の情報を補足している程度である。また先に述べたように、この指導書はアップグレード研修のなかで紹介しているが、受講者の評価は高く、コピーを分けてほしいと言われることもある。

教育実習生が行う「子ども中心の授業」に対する実習先の理解の低さについては、調査時にも依然課題として残っていることが認められたが、TEI から実習生の受入れ校に対する説明を継続してきた結果、以前よりも問題は小さくなっている。また、小・中学校のカリキュラムは基本的に子ども中心の授業を実践することをうたっており、また教育省の開く会合の中でも折にふれ、その重要性を訴える等の指導が並行して行われているため、TEI としてはそれ以上の働きかけは行っていない。

### 3-1-2 現職教員研修の状況

#### （1）教員の指導力について

教員の指導力は、授業の質、ひいては教育の質を左右する重要な課題であるが、ラオスにおいては、教員の能力はその資格（学歴）で測られるという傾向があり、指導している学校レベルに求められる資格をもつことが、教員としての資質を証明するものと理解されている。しかしながら、これは必要最低限の単位を履修したという証明にすぎず、これがすなわち教員の能力の高さを示すものではないことは明らかである。また、資格取得のための研修イコール現職教員研修である、という理解をしている教員や教育関係者が多く、必要な資格を取得してしまうと、その後の職能成長に関わる研修は用意されていないというのが実情である。

現場での聞き取り調査を通じて浮かび上がってきた課題には以下のようなものがある。

#### ①教員が必要な資格を取得していない。

2002 年に施行された TEI の新カリキュラムでは、小学校教員については 11+2、中学校教員については 11+3 の養成課程を経ることが求められている<sup>3</sup>が、小学校教員については現在も、8+3 あるいは 5+3 という資格の者も多い。このような低資格教員や無資格教員は、先に述べたアップグレード研修を履修して必要な資格を取得することになるが、このコースを実際に参観した様子では、講師による一方的な講義形式の授業が大半を占め、参加教員も授業に出席しさえすれば資格が与えられるといった受け身の姿勢で臨んでいるように感じられた。したがって、このアップグレード研修は資格を与えるという課題には応えるものの、以下②及び③にあげられるような授業の質に関わる課題に対しては、有効な対策となっていない。

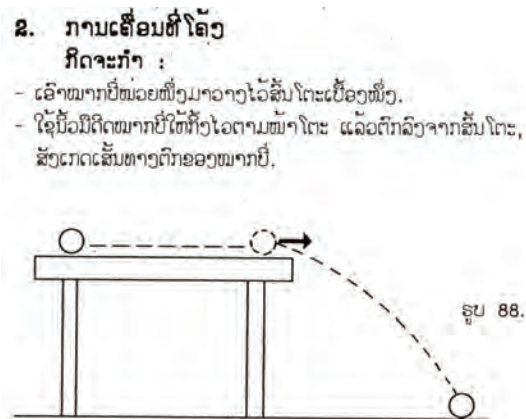
<sup>3</sup> TESAP では、2015 年を目標に、教員養成課程のすべてを 11+5（学士レベル）にすることが計画されている。

②教科の内容を十分に指導できない。

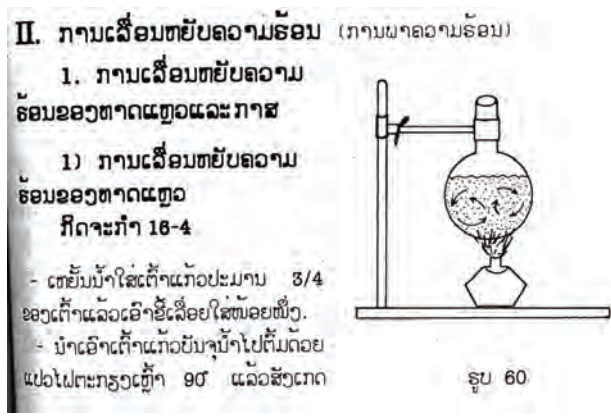
教員が自身の指導する教科の内容を十分に理解しておらず、そのため、教科書の内容をそのまま板書し、それを生徒に暗記させる、ノートに写させるといった指導に陥っている。教員の知識が教科書の範囲を超えることは難しく、算数等においては、教科書に載っている練習問題以外の課題を与えることは、教員自身はその解答に不安を覚えるため、ほとんど行われていない。聞き取りの中では、教科書以外の練習問題を与えたいという教員もあったが、そのためには解答と解法の丁寧な説明が載ったテキストが必要とのことであった。

このような実態の教員が、使用している教科書の誤りを見つける、不適切な表現を正す等の作業は非常に困難であると思われる。したがって、教科書と指導書は正確な知識を、順序立てて指導できるつくりになっていることが最低限保証されるべきである。

しかし、現状は、教科書にはいくつか不適切なものが見受けられている（以下は、中学校2年生の「自然科学」の例）。



水平投射の場合には、ボールの軌道を表す点線は放物線で描き、特にボールが机の端を超えた位置から落下が始まることを明確に示す必要がある。



対流の様子を示す矢印は、単に液体の回転を示すのではなく、温められて液面まで上昇した液体が、液面に沿って移動し、冷えて再び下降するプロセスを示す必要がある。

これらの例は、いずれも大きな間違いとはいえないが、挿し絵が子どもの理解を助ける重要な手がかりであることを考えると、細かな配慮が必要である。挿し絵の担当者は、この図は子どもたちに何を読み取らせるためのものであるかを十分に理解して作成する必要がある。

③子どもの学力を伸ばすような、効果的な指導を行えない。

カリキュラムが求めるような子ども中心の授業法については、多くの教員が“new teaching method”、“active learning”という表現（いずれもドナーの指導による）で、知識としてはもっているようであった。しかし、その具体的な技法としては、グループ活動を取り入れることという程度の理解にとどまっている。中には“5-point star approach<sup>4</sup>”と答える者もあったが、その中で特に重要なものは具体物の使用とやはりグループ活動との認識であった。

問題を複雑にしているのは、子ども中心の授業が実践できない教員が多だけでなく、グループ活

<sup>4</sup> 効果的な指導のための5つのポイントを表している。その内容についてはさまざまな説明があるが、ラオスの教員は、activities、group work、questioning、materials、relevance to daily life の5つをあげることが多い。

動を取り入れれば子ども中心の授業を行っているという錯覚や、具体物を用いて子どもが操作活動を行えば子ども中心の授業を行っているという誤解をしている教員も同時に存在することである。これは、子ども中心の授業が何を指して、どのように組み立てられなければならないかという、指導法の根幹が十分理解されないまま、教員たちの目に見えるグループ活動や教材の使用だけに意識が向けられてしまった結果だと考えられる。その意味で、教員が、目指すべき子ども中心の授業の姿を明確にすること、模範となるような子ども中心の授業を参観して、その具体的なイメージをつかむことが重要であると考えられる。

## (2) 現職教員研修の現状について

### ①教育行財政について

中央レベルの教育行政は教育省の任務であり、教育政策、教育制度、地方における教育活動の監督と指導・助言を行うことになっている。2000年の地方分権化政策の下で、各県に PES と DEB が設置され、PES は県レベルの中学校及び教育省管轄下でない職業訓練校等を管理し、DEB は小学校、就学前教育、ノンフォーマル教育を管理している。行政組織としては、DEB 以下に公的な組織は存在しないが、教育省組織図には“Schools and Village Communities”が示され、また教育省令により村教育開発委員会 (Village Education Development Committee: VEDC) の設置が呼びかけられている。

教育予算は、経常予算と投資予算から成り、経常予算は、財務省が、投資予算は計画投資省 (Ministry of Planning and Investment: MPI) が管理している。このため、各県は経常予算を財務省に、投資予算を MPI にそれぞれ申請し、国会承認を経た後、財務省から配分されることになる。県レベルでの教育予算の流れは以下の3通りである。

- ・教員の給与は、財務省から
- ・教材・教具等の購入経費は、教育省の財務局から
- ・学校建設や施設設備の維持管理は、県政府から

ここに示すように、教員研修にかかる経費はそもそも確保されておらず、そのほとんどをドナーの支援でまかなっており、これがさらに経常的な予算確保を促さないという結果につながっている。また、県政府から教員研修にかかる経費を支出することは、現在の制度上不可能であるが、教育省と財務省の間で了解され、公式な通達がなされれば、県政府から教員研修の経費を支出することは可能となるだろうとのことである。

教育予算に関しては、県によってその配分に不公平がある。以下のようにプロジェクトの対象県のひとつであるカムアン県は、2007年時点で生徒1人当たりの予算配分が全国で最も少ない県である。

**表3-1 県別教育予算と生徒1人当たりの教育予算 (2007年)**

県	教育予算 (Kip)	生徒1人当たりの教育予算 (Kip)
ビエンチャン特別行政区	72,381,000	447.82
ポンサリー	15,990,000	415.99
ルアンナムタ	15,631,000	427.25
ウドムサイ	22,566,000	321.33
ボケオ	12,976,000	370.59



ルアンパバン	37,170,000	350.02
フアパン	42,391,000	513.04
サイアブリー	33,965,000	406.54
シェンクワン	28,049,000	372.15
ビエンチャン	61,974,000	535.49
ポリカムサイ	20,842,000	327.21
カムアン	24,140,000	287.66
サバナケット	71,211,000	400.45
サラワン	21,200,000	316.88
セコン	9,445,000	394.17
チャンパサック	52,529,000	398.35
アッタプー	15,154,000	563.97
平均	32,800,000	402.88

出所：外務省「ラオス教育分野の評価報告書（2008）」 ※元データは School Census 2007-2008

## ②教育行政研修、現職教員研修について

調査時点で、ラオスにおいてはすべての教員に対して研修参加の機会を均等に保障する研修は行われていない。主な理由は、現職研修を実施するための予算が十分に確保できないことのようにあるが、それ以前に教師が学び続けることの重要性や、養成課程とは異なる「現場教師に必要な知識と技術がある」という考え方が確立していないという印象を、聞き取りを通して受けた。そのため、ドナーの支援で研修経費の確保ができた場合にのみ研修が行われ、内容的にもドナー側主導で行われる傾向があると考えられる。

現職研修は、必要な教員資格を付与する研修と資格付与のない研修とに分けられる。

教員資格を付与するアップグレード研修と呼ばれる研修は、PES と DEB が、現場教師の保有する資格と指導実践の状況に基づいて勧告するが、受講はあくまで本人の意志によって行われる（研修経費は受講者の自己負担）。受講期間は 16 週から 22 週で、夏期休業中の 2 カ月にわたる集中講義を 3 年間継続することで資格が与えられる。基本的に TEI を会場に、TEI 教官が講師を務めるが、今回訪問したカムアン県のように TEI のない県については、近隣の TEI 教官による毎週末の出張講義によって行う夜間コースを設定していた。これらの研修については、UNICEF や ADB、SIDA が支援を行っている。

資格付与のない研修には、複式学級に対する指導法の強化（ADB/AusAID 支援による BEGP/LABEP、及び WB 支援による EDB-II）と、現在行われている中等教育の指導要領改編に伴う、その導入研修（ADB 支援による BESDP）がある。

教育省が行う研修の主管がどの組織になるのかは、支援するドナーがどこをカウンターパートとしてプロジェクトを計画をするかによって決まっているのが現状である。よって、現職教員研修の責任の所在が不明確になっているという課題がある。現在、教育セクター開発フレームワーク（ESDF）及び TESAP を中心として、現職教員研修に関する体系作りが行われているが、いずれのガイドラインも完璧に実施されているわけではない。

### ③教員の主体的な研修について

各学校における研修は、校内研修と PA の訪問による指導が中心で、一部に他校との連携によるクラスター研修が実施されている。

校内研修は、「一般教育に係るPAに関する教育大臣令（2009）」に基づく校内指導活動（Internal Supervision）に含まれており、授業研究の手法（指導案作成、模擬授業と参観、事後検討会）を用いて、校長のリーダーシップの下で活動することが指導されている。これに対してPAは、外部リソースとして機能することが期待され、彼らの指導を外部指導活動（External Supervision）と表現する。

PA の訪問は（彼ら自身の業務としては「モニタリング」と表現される）、PA1 人当たり年に数校程度、特に指導の必要な学校に的を絞って行われている。内容は、学校運営やその課題に対する校長への聞き取りと、先に述べた授業研究に対する指導・助言が含まれる。PA 自身はもっと現場に出たいと望む者が多いようであるが、学校訪問にかかる交通費の不足、また本来教員として現場での指導を行っている者が大半であるため、訪問時間の確保が困難であることが問題となっている。

クラスター研修については、クラスターに所属する教員が中心校に集まって授業研究を行っている地域が一部存在するようであるが、大半は各校の校内指導教員が、訪問計画に従ってクラスター内の学校を訪問し、授業に対する指導・助言を行っている。この活動も外部リソースによるものとして外部指導活動のひとつとされる。

なお、クラスター研修を行うための条件として、中心校に研修リソースセンターがあることが必要であると訴える者が多かった。その機能は研修会場としてのみでなく、資料や教材の保管・展示場所とのことであったが、センターがないと研修ができないという根拠は明確でなかった。また、これらの研修も、地域によっては研修会場校までのアクセスが悪く、日当や交通費を支給されても参加しない教員が存在するとのことである。

教員の給与は一般的にたいへん低く、小学校教員で平均 39 ドル/月、中学校教員で平均 45 ドル/月と言われている<sup>5</sup>。政府も教員をはじめとする公務員が副業をもつことを認めており、そのため、学校での授業の終了とともに副業に精を出す者が多く、放課後を使って校内研修を行う時間を確保できない学校も多い。

### ④ドナー支援による現職教員研修プロジェクト

ラオス外務省の Foreign Aid Report 2005-2006 によると、2005 年度のラオス全体に対する援助総額は 4 億 6,839 万ドルであり、うち教育分野に対する援助額は 5,134 万ドル（約 11%）となっている。このうち二国間援助は約 66%を占め、その内訳は以下のようにになっている。

表 3-2 教育分野に対する二国間援助実績（2005 年）

国	支援額（百万 USD）	割合（%）
ベトナム	8.12	23.83
日本	5.26	15.43
オーストラリア	5.11	14.99
スウェーデン	4.50	13.20
韓国	4.33	12.71

<sup>5</sup> “Teaching in Lao PDR (March 2008, World Bank)”

フランス	1.72	5.05
中国	1.46	4.28
ノルウェー	1.03	3.02
ベルギー	0.77	2.26
ルクセンブルク	0.73	2.14
ドイツ	0.68	2.00
ニュージーランド	0.36	1.06
タイ	0.01	0.03
フィンランド	0.00	0.00
合計	34.08	100.00

出所：Ministry of Education(2006) “Foreign Aid Report 2005-2006”

小学校レベルへの支援は、日本をはじめ、ADB、WB、EU、AusAID、SIDA、AFD、UNICEF、UNESCO、WFP 等多くのドナーが支援を行っている。本調査時点で実施されている基礎教育分野のプログラムには以下のようなものがある。

表 3-3 各ドナーによる基礎教育分野プログラム一覧

プログラム	支援機関 (教育省 担当)	内容	対象地域	期間/支援額
<b>ABEL</b> Access to Basic Education in Laos	UNICEF AusAID WFP  (DPC)	・子どもたちに健康、栄養等の総合的支援を行う ・給食 (WFP) ・給水・衛生施設、衛生教育、教員研修 (UNICEF) ・プログラムへの財政支援 (AusAID)	北部 3 県 (ルアンナム タウドムサイ ポンサリー)	2005～2010 11.0 M ドル
<b>BENC</b> Basic Education Development Project in Northern Communities	EC  (DPPE)	・不完全校の完全校化 ・現職教員研修 ・住民参加による教育の質の向上 ・地方レベルでの教育マネジメントの改善	北部 3 県 (ルアンナム タウドムサイ ポンサリー)	2004～2010 6.4 M ユーロ (うち、0.4 M ユーロはラ オス政府)
<b>BESDP</b> Basic Education Sector Development Program	ADB  (BSE)	・学校建設 ・中学校カリキュラムの改編 ・新カリキュラムに関する教員研修 ・教科書、指導書の配布 (改訂版教科書、指導書は右記 6 県、現行教科書、指導書は全国)	アッタプー チャンパサック サバナケット カムアン ルアンナムタ ボケオ	2007～2012 21.6 M ドル (借款 8.9 M ドル 無償 12.7 M ドル)

<b>EDP-II</b> The Second Education Development Program	WB  (DPI)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティによる学校建設</li> <li>・コミュニティグラント（各学校に年間 300 ドル程度を支給、VEDC を中心に、教科書、ノート、制服等を購入）</li> <li>・複式学級指導にかかる教員研修</li> <li>・教科書、指導書の配布</li> <li>・教育省の指導能力向上</li> </ul>	6 貧困県の 19 最貧困郡 （ポンサリー ルアンナムタ ウドムサイ フアパン セコン アッタプー）	2005～2010 13.5 M ドル
<b>EQIP-II/ TTEST</b> Second Education Quality Improvement Program/ Teacher Training Enhancement and Status of Teachers	ADB/ SIDA  (DTE)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校建設  （ボケオ、ルアンパバン、サイアブリー、サバナケット）</li> <li>・現職研修（Upgrading Program、子ども中心）  （ピエンチャン、チャンパサックの全県）  （サラワン、ルアンナムタ、シェンクワンの一部）</li> <li>・TEI のカリキュラム改編、テキスト改訂  （全 TEI）</li> <li>・教育省の能力向上</li> </ul>	2002～2010 37.6 M ドル （ADB 借款 20 M ドル SIDA 無償 9.6 M ドル ラオス政府 8.0 M ドル）	

注： M は 100 万（million）を指す。

### 3-1-3 調査結果のまとめ

ラオスの教員及び教育関係者の現職教員研修に対するイメージは、ドナーの支援による単発的な、時間も場所も指定されたひとつの行事であるということが読み取れた。つまり校内指導活動として行われている校内研修を、現職教員研修のひとつであると認識する者はほとんどいないようである。

JICA を含む多くのドナーが子ども中心の授業を支援する研修を行ってきたが、その呼び方も“student-centered”、“learner-centered”、“child-centered”、“active learning”、“the new teaching method”等さまざまで、その意味合いも各ドナーの指導により少しずつ異なっている。共通する部分としては、児童・生徒活動を取り入れること、教材（具体物）を用いて指導すること、の2点であるが、このふたつを取り入れれば子ども中心の授業になるという誤解をしている教員が数多く見受けられる。

教員の、特に子ども中心の授業を行うための指導力不足の原因としては、教科内容の理解不足と、指導法の理解不足及び練習不足があげられる。まず教科内容の理解が不十分であることについては、子ども中心の授業を行うためには、対象となる子どもたちの実態にあわせて単元の内容に工夫を加えて提供しなくてはならない。このため教員は、単元をさまざまな角度から分析し、その内容を十分に理解している必要がある。これに対処するには、教員の理解不足がどの単元のどの部分に多く、それがどのような原因（つまりき）で起こっているのかを分析する必要がある。

指導法の理解不足及び練習不足については、ラオスの教員は、子ども中心の授業法を単に技術としてみなすきらいがあり、そのため先に述べた児童・生徒活動を取り入れることや、具体物を用いることという目に見えるものにばかり着目し、本来意味するところである「子どもの主体的な学びをどう引

き出すか」には考えが及んでいない。さらに、指導法を上手に学ぶ研修機会や適切な自習教材等が不足していることがあげられる。教室が研修の場であること、毎日の授業が研修の場となることを教員に理解させ、学校レベルで実践できる質の高い教材の提供や、さらにこれらを指導する校長、校内指導教員、PA等の指導力を向上させることも重要な課題となってくる。

プロジェクトの協力を通して、子ども中心の授業法は、授業に対する考え方そのものの転換であることを教員に理解させ、具体的な実践方法を指導し、練習の機会を多く与える必要がある。

### 3-2 5項目評価

本調査は、プロジェクトの計画内容の適切さを判断するものであり、プロジェクトの組み立てが論理的であるか、目標や活動が明確に示されているかを手がかりに、特にプロジェクト実施の妥当性に対する評価を行った。

以下に示す視点から評価した結果、プロジェクトの実施は適切と判断された。ただし、評価は予測や見込みに基づいており、必ずしもプロジェクト目標の達成を保障するものではない。特にラオス政府による適切なカウンターパートの配置と、これらの人材が円滑にプロジェクト活動を行うための経費確保を条件として、協力を実施することが適切である。

#### 3-2-1 妥当性

本プロジェクトは、以下の理由から妥当性が高いと認められる。

##### (1) ラオスの政策との整合性

- ・ 「第6次国家社会経済開発計画（NSEDP）2006-2010」等の政策文書は、質の高い教育の提供による人的資源の開発を強く訴え、高い指導力を備えた教師を育てることを重視している。この実現のため教育省は、校内研修を基盤とする校内指導活動（Internal Supervision）の普及を推奨し、学校現場における取り組みが始まったところである。しかし、効果のある授業研究の方法や他校のモデルとなるような校内研修の仕組みはいまだ出来上がっていない。

授業研究を中心とした校内研修により小学校教員の理数科指導力の向上を促す本プロジェクトは、ラオスの政策に合致し、さらに校内指導活動の強化・定着を促進するものと期待できる。

- ・ 「教員教育戦略・行動計画（TESAP）」（2006）では、継続的な職能向上の戦略として、TEI、PES、DEB、PA、校内指導教員等からなる Professional Development Network（PDN）の構築をうたっているが、具体的な組織作りは進んでいない。

プロジェクトの取り組みは、TEI、PES、DEBを巻き込んだ現職研修の仕組みづくりを促進するものであり、ラオスの教員教育戦略に合致する。

- ・ 現行の小学校及び中学校のカリキュラムは、これまで教師主導の指導を行ってきた教員に、子ども中心の授業への転換を促している。この授業法については、ここ10年ほどドナー（UNICEF、ADB、SIDA等）の支援によって指導がなされてきたが、理論中心の研修であったためか、目に見える変化・効果は認められていない。

SMATTの成果である子ども中心の授業の実践的手法を指導する本プロジェクトは、この課題に対する答えを提供するものである。

## (2) 日本の援助政策との整合性

- ・ 外務省「対ラオス国別援助計画(2006)」によれば、日本政府は基礎教育の充実を援助方針に掲げ、教育マネジメント及び教育へのアクセスの改善と並んで、教育の質の向上を目指している。このため、特に教員に対する研修の継続が明記されており、現職教員研修の強化を狙う本プロジェクトは、日本の援助政策に合致している。

また、JICA 理数科教育協力の方針<sup>6</sup>は、子ども中心の授業の実践を目指すことと、教師の実践を変えることに焦点をあてており、そのアプローチとして指導計画(学習指導案)の導入・定着と授業研究による研修の質的向上を掲げている。本プロジェクトの手法は、まさにこの JICA 理数科教育協力のアプローチを実践するものであり、その支援方針と一致している。

## (3) 現場のニーズ

- ・ 小学校教員は、カリキュラムが求める子ども中心の授業に対する理解がまだ浅く、グループ活動を取り入れる、子どもたちに作業をさせるといった表面的な活動を取り入れれば、子ども中心の授業となると誤解している。子どもたちが主体的に学ぶという本当の意味での子ども中心の授業を実践するためには、その理論のみでなく模範的な子ども中心の授業を参観する、單元ごとに指導のポイントを学ぶ等の取り組みの中で、子ども中心の授業の具体的なイメージを構築していく必要がある。
- ・ 教育省の働きかけで、校内指導活動やその中で授業観察を行うことが求められているが、その効果的な運営や実施方法について十分に理解されているわけではない。このため、教育省の期待どおり継続できない、あるいは十分な質を伴わないという問題が生じている。

校内研修の指導者である校長及び校内指導教員に対して、研修の指導技術の向上を促す本プロジェクトは、校内研修の質を向上させ、そこで取り組む授業研究を通して、子ども中心の授業の定着を図るものであり、これらの取り組みは、学校現場のニーズに合致した支援であると認められる。

## (4) 手段の適切性

- ・ SMATT プロジェクトを通じて子ども中心の授業の実践的手法を身につけた TEI 教員は、この授業法を自身の講義で継続的に指導している。また教員たちは、この手法の小中学校への普及が必要であると強く感じているが、経済的な問題から十分な支援活動が行えていない。

TEI 教員を指導者として活用する本研修の仕組みは、SMATT プロジェクトの成果を活かすのみでなく、人的リソースの有効な活用という適切性が認められ、その効果が期待できる。

- ・ 本プロジェクトが小学校教員を対象とする根拠としては、小学校レベルではすでにクラスターが構築されており、一部地域では授業観察やそれに基づく意見交換を通して、地域の教員が共に学ぶ活動が始められていることがあげられる。

校内研修及びクラスター研修を通じて教員の指導力向上を図る本プロジェクトは、教員の研修活動を後押しし、さらに質的な向上を促すことが期待できる。

- ・ 中学校教員に対する研修については、調査時点において中学校レベルのクラスターが存在しないことや、中学校のカリキュラム改編が進行中であることから、まずは小学校レベルのよい事例を

<sup>6</sup> 「理数科教育協力にかかる事業経験体系化研究会報告書(2007年3月)」にまとめられている。

立ち上げ、それを中学校に適応することが望ましい。したがって、小学校での実践の進捗を注視しながら、中学校教員に対する研修の開始時期を検討するものとしている。

- ・他ドナーの協力と比較した場合、本プロジェクトはその支援内容において一部重複が認められる。たとえば、教育の質向上プロジェクト フェーズ 2 (アジア開発銀行) / 教員養成・教員の地位向上プロジェクト (Second Education Quality Improvement Project / Teacher Training Enhancement and Status of Teacher Project: EQIP-II / TTEST (ADB/SIDA, 2001-2010)) が“active learning”と称して子ども中心の授業の理論を中心に指導していることや、UNICEF がクラスター研修を支援 (2006 年に終了) する中で“new teaching method”として子ども中心の授業を紹介し、またこの授業を評価する PA に対して、これら授業観察の視点を指導してきたことがあげられる。しかし、本プロジェクトが手がける研修では、單元ごとに、子ども中心の授業の具体的な実践方法を指導することを計画しているため、他ドナーの支援の成果が先行知識として有効にはたらくことが期待される。実際に SMATT プロジェクトの期間中、TTEST トレーナーを兼任する TEI 教官が、TTEST の研修で SMATT の成果を紹介したところ、その指導が TTEST 関係者からも評価されてきたという実績がある。したがってプロジェクトの取り組みは、教員が子ども中心の授業を具現化するための技能を身につける取り組みとして、他ドナーの支援を活かし、相乗効果を生むことが期待できる。

### 3-2-2 有効性

本プロジェクトは、以下の理由から成果の発現及びそれに伴うプロジェクト目標の達成が見込まれる。

- ・プロジェクト目標である「対象小学校において理数科の指導法が改善される」の達成度は、指導案作成能力の評価及び授業実施能力の評価の 2 つの指標によって測定する。これらの評価は、TEI 教官の指導を受けた校長と校内指導教員が、日常の研修活動の一部として行うため、指標に関するデータ入手のための特別な経費はかからず、かつ継続性が認められる。さらにこの評価は、対象地域全体で共通の評価方法と評価フォーマットにしたがって行うことが想定されており、教員の能力の客観的な把握が行われるものと期待されることから、信頼性が認められる。なお、指導案の評価基準、授業実践の評価基準の設定は、プロジェクト開始後のベースラインサーベイに基づき、実際の教員の能力を反映して行うことを計画している。
- ・3 つのプロジェクト成果はそれぞれ、組織・運営、人的資源、研修教材という研修実施に欠くことのできない要素<sup>7</sup>から構成されており、それぞれの成果が十分に達成されることで、研修活動が継続的に実施され、その結果としてプロジェクト目標が達成されるものと期待できる。

一方、研修実施にかかる経費については、本調査時点で明確な財源が確保できていない。プロジェクトでは学校レベル、クラスターレベルの研修においてはコミュニティの支援が、また県レベルの研修においては、PES による財源確保 (または県政府の支援) が期待されているが、これについてはプロジェクト開始後、あらゆる可能性を考慮して、研修が円滑に実施されるような予算確保を工夫する必要がある。
- ・プロジェクト対象校の選定は、校長のやる気と研修の準備状況 (研修計画の策定、研修経費の確保等) に基づいて決定されるため、円滑な研修実施を期待できる学校が優先的に選ばれることに

<sup>7</sup> 研修実施に必要な 4 つの M (Manpower, Material, Money, Management) のうち、3 つを強化することが成果として掲げられている。

なる。この戦略は、モデル構築を行う上で効果的である。

- ・ プロジェクトは、教員の授業力向上に有効な授業研究の手法（授業計画、授業実施と参観、事後検討会）を中心に据えており、この効果を十分引き出すための校長向け研修や PA による訪問指導を組み合わせている。この手法は、教員の授業力向上への取り組みとしては一般に効果が認められることから、十分な質を備えた校内研修を継続することで、その効果の発現が十分に期待できる。

### 3-2-3 効率性

本プロジェクトは、以下の理由から効率的な実施が見込まれる。

- ・ プロジェクトは既存の組織や人的資源を最大限に活用するようデザインされており、新たに大規模な投入を行う必要がない。プロジェクトの働きかけは、以下のような既存の資源を適切に関わり合わせ、研修活動を効果的に継続する仕組みを作ること、またこの研修が教員の授業力向上を促すものとなることを支援するものである。

#### 1) 校内指導活動（Internal Supervision）

教育省就学前・初等教育局（Department of Primary and Pre-school Education: DPPE）が校内指導活動についてのテキストを作成し、ドナー（EQIP-II/TTEST）の支援で印刷、配布を行っている。また同ドナーの支援で全国の TEI 教官に対して、この活動に関する指導を行った実績があり、さらに教育省は School of Quality<sup>8</sup>活動のひとつに盛り込み、すべての学校が取り組むよう促している。また、PA がこの活動を支援すべきであることが「一般教育に係る PA に関する教育大臣令（2007）」に示されている。

#### 2) クラスタースystem

クラスタースystemはドナー（UNICEF）の支援で 2001 年に導入された。しかし、クラスタースystem編成に無理があった（一部のクラスタースystemは、地理的に大きな区分けをしてしまったため、教員の移動が困難であった）ことや、研修経費をすべてドナーが負担したため、その終了と同時に、多くのクラスタースystemで活動が停止した等の課題を抱えている。一部の郡や県の中心部においては、その地理的条件のよさから継続しているグループも存在する。

#### 3) TEI 教官

先行案件である SMATT において養成された TEI 教官たちは、子ども中心の授業法を継続的に指導しており、TEI の中には教育実習前にこの授業法について集中講義を行うところもある。さらに TEI 教官たちは、この授業法が小中学校の現場に必要な技能であるという認識を持っており、自主的な研修活動を通して小中学校への普及を目指してきたが、経費負担の問題から、この普及活動は TEI 近隣のごくわずかな小中学校にとどまっている。

#### 4) 学校をとりまくコミュニティ

ラオスでは伝統的にコミュニティが学校を支援する慣習があり、本プロジェクトについても、調査期間中に確約は得られていないが、コミュニティに研修経費を負担してもらうことが期待されている。また政府の方針として VEDC の設置を呼びかけていることから、今後、学校に対するコミュニティの支援が拡大・強化されることが期待できる。

---

<sup>8</sup> 教育省が定める学校基準（ミニマム・スタンダード）



- ・ 成果の達成度を測る指標は、それぞれについて複数用意されており、研修の量と質の両面からその向上を測ることが想定されている。特に成果2については、人材強化の対象となる校長、校内指導教員及びPAのそれぞれについての能力の向上を測るため、7つの指標が用意されているが、その根拠となるデータは、毎回の研修会で行う評価活動の結果を基にしている。したがって、データの入手のための特別な活動を必要とせず、データ収集が確実にできるよう配慮されている。
- ・ プロジェクトを運営・管理する組織については、本調査時点において、その構成員、役割と責任分担について詳細に定められてはいない。今後、ラオス側関係機関との協議を通じて明確にしていく必要がある。

### 3-2-4 インパクト

本プロジェクトの実施によるインパクトは以下のように見込まれる。

- ・ 上位目標「対象県の授業の質が向上する」は、適切な質を維持した研修を継続的に実施することにより、プロジェクト終了後3年から5年で確認できると見込まれる。授業研究はその研修効果の高さが認められ、教員研修の手法として多くの国で実践が始まっているが、その効果を発揮するには、研修の質の管理と継続的な実施が条件となる。したがって、TEI 教官からのインプットやPAによるモニタリングを十分に行う等、研修の品質管理が重要な課題となる。
- ・ 毎回の校内研修で用いる研修用教材を製本し、プロジェクト対象郡内のすべての小学校に配布することを計画しているが、これにより、これらの学校でも子ども中心の授業への興味喚起を図り、自発的に校内研修の質的改善が起こるといった副次的な効果を期待できる。一方、このようなインパクト実現のためには、教材は校内研修の質をコントロールできるような品質（外部からの指導がなくても、ある程度、研修会の質を確保できるもの）を備えることが条件となり、本教材の作成においてはTEI 教官の能力や経験を十分に教材に反映させる必要がある。
- ・ プロジェクトは、TEI 教官を指導者として授業実践について研修を行うため、TEI 教官が現場教員の実態、学校現場の実情を把握する機会となりうる。これらの情報は研修教材や研修の指導内容に反映されるだけでなく、TEI の授業を現場の実態に即したものに変わっていく手がかかりとすることができる。これにより、プロジェクトが教員養成課程と現職教員研修を橋渡しする役目を担うことが期待される。
- ・ プロジェクトの実施を通して、これまで理論的、あるいは表面的にしか理解されてこなかった子ども中心の授業についての具体的な実践方法の定着が期待されているが、この成果は他ドナーの支援との相乗効果を生む可能性が高い。また、これを通して、これまでさまざまな表現や説明で紹介されてきたこの指導法の統一的理解がなされるものと期待できる。
- ・ 負のインパクトとしては、特に対象校以外の学校で、配布された研修教材が正しく用いられない場合に起こる、誤った「子ども中心の授業」の広まりが懸念される。また、インパクトではないが、研修の品質管理が十分に行われない場合に起こる研修のマンネリ化等により、参加者の意欲が削がれ、研修離れが起こりうる。校長や校内指導教員、さらに彼らを指導するPES、DEB 職員とTEI 教官には、参加教員に対して常に魅力ある研修、効果を実感できる研修を提供できるよう努力することが求められる。
- ・ プロジェクトの規模<sup>9)</sup>は、3年間で約900名の教員を研修し、彼らを通じて約2万7,000名の生徒

<sup>9)</sup> 1) 第1年次はパイロット3県の各3郡で2クラスターずつ開始する。

が裨益する。

有効性の欄でも触れたが、まずはやる気のある学校を対象とするパイロット事業として研修を開始し、効果を実感できる研修モデルを立ち上げることを目標とする。そのため、プロジェクト規模を比較的抑えた形で、十分な質を保ちながらプロジェクト運営を行う。

### 3-2-5 自立発展性

本プロジェクトの自立発展性は、政策面に関してはほぼ問題はないと思われる。一番の課題と予想されるのは財政面であり、調査時点ではラオス教育省側から特段問題があるとの指摘はなかったものの、研修経費の負担に関する約束はどの組織とも交わしておらず、この問題が解決されない場合、自立発展性以前に、プロジェクトの実施自体が効果的になされない恐れもある。

#### (1) 政策面

- ・ 教育省は校内指導活動や School of Quality 等の方針において、学校レベルでの継続的研修活動の重要性を訴えており、授業改善の手法として、今後も授業研究を中心とする校内研修が推進される可能性が高い。
- ・ 妥当性の欄で述べたとおり、小学校のカリキュラムでは明確に子ども中心の授業への転換を求めている。今回のカリキュラム改編においてもそれが継承されており、指導法改善に関する方向性については大きな変更がないものと期待できる。

#### (2) 技術面

- ・ プロジェクトでは、研修運営の技能や子ども中心の授業を実施する技能を特定の個人に残すのではなく、中央、県、郡、学校のそれぞれのレベルにおいて、研修運営に責任をもつ組織や人、研修内容に責任をもつ組織や人に対して成果を残すよう働きかけることが計画されている。これにより、組織としての能力強化が行われ、移転された技術が組織記憶として残ることが期待されるとともに、ラオス教育界の共有の財産として他ドナー等による活用も期待される。
- ・ 校内指導活動は、文字どおり学校ごとの努力により継続が可能である。しかし、その品質向上のための取り組みがしっかりと行われない場合には、マンネリ化を起こして効果の上まらない研修となる危険がある。

#### (3) 組織面

- ・ プロジェクトは、複数の組織を横断する管理チームを設置しているため、構成員のそれぞれが自身の役割をよく認識し、互いに協力して機能を果たすことが求められる。この努力を怠った場合、プロジェクト運営が円滑に行われない恐れがある。

#### (4) 財政面

- ・ プロジェクトのデザインは、研修経費をできるだけ抑えて実施できるよう工夫しているが、経費ゼロでは研修は行えない。そこで、比較的経費負担の小さな校内研修やクラスター研修について

---

2) 各クラスターは平均4校による構成と仮定する。

3) 2年次は同郡内で2クラスターずつ拡大、また3年次は同県内の新規1郡へ拡大する。  
(調査時点のプロジェクト計画に基づく試算であり、今後変更の可能性のあることに留意。)

は、コミュニティによる負担を考えている。また政府は今後、VEDC の設置を推進する方向であり、教員研修の経費をコミュニティの支援でまかなうことのできる可能性が高まると思われる。しかし、VEDC は、本来、学校に対する経済的支援を行うためものではなく、学校全体の教育活動に支援を行うことが期待されているため、調査時点では、コミュニティがどの程度まで研修経費の負担を行うかについて明確にはなっていない。今後の啓発活動と調整によりこの支援を確実なものにしていく必要がある。

- ・ プロジェクトの要となる活動は、TEI 教官や PES による校長及び AT 向けのワークショップであり、この活動が各クラスター、各学校の研修の質を左右することになる。ここにかかる経費負担は PES に期待されているものの、彼らが経費の工面をできない場合には、研修自体の継続が危ぶまれることになる。

今回の聞き取り調査の中では、研修経費の財源について、EFA ファスト・トラック・イニシアティブやナム・トゥン 2 ダム<sup>10</sup>への関係者の期待がうかがえたが、現時点でこれらについては確約がない。また今後、これらの獲得を目指していくのであれば、教育省内でのプロジェクトの知名度を高め、成果を広める活動等を積極的に行っていく必要がある。

---

<sup>10</sup>ラオス中部のナム・トゥン川にダムを建設し、発電量1070MW のうち995MWをタイに輸出し、残り75MW を国内で利用する計画。世界銀行、アジア開発銀行が資金協力を実施。

## 第4章 特記事項（実施上の留意点）

### 4-1 継続性の重視と成果発現に時間を要することへの共通理解

校内研修は、外部者が実施する研修会等の外部からの投入によって革新的な変化を意図するものではなく、現場レベルでの実践を継続的に行うことにより漸次効果が現れることを期待するものであり、地道な改善を積み重ねるアプローチである。したがって、現場教員の指導方法に効果が現れるためには、ある一定の期間、校内研修を繰り返し行うことが必要であること、具体的には、少なくとも2カ月に1回程度の頻度で数年繰り返すことによって初めて効果が期待できるものであることを関係者間で共有しておくことが肝要である。

### 4-2 活動資金の確保

クラスターレベルの活動費の確保と、県が郡教育局の指導主事（PA）や学内指導教員に対して行う年2回の研修会の開催費を確保することが、プロジェクトのモデルの継続性を確保するために不可欠となる。したがって、学校は、コミュニティからの支援を含め、学校活動に関する必要経費をまかなうことのできるポテンシャルをもっていることが重要である。対象校を選定する際、これらの条件を満たす県、郡、学校を選ぶ必要がある。

### 4-3 異なる部局間の連携の重要性

校内研修用教材の作成を行う教員養成大学は教員養成局の管轄、校内指導活動やクラスター活動は初等教育局が管轄している活動であり、ひとつのプロジェクトに関してふたつの異なる業務系列の関与を必要としているため、両者の連携が特に重要となる。この協働の仕組みを国、県、郡のそれぞれのレベルでどのように作っていくかが鍵となるため、そのような協働を具体的に進めるための機会を取り入れることが重要である。たとえば、計画作りから県教育局（PES）と教員養成校（TEI）が共同で行う等、そのための具体的な方法をプロジェクト内に取り込んでいくことが必要である。

### 4-4 子ども中心の授業を実際に見る機会を設ける

授業法を改善するには、目指すべき授業法を具体的にイメージすることが不可欠であるため、新しい授業法を取り入れた実践授業例を、教員自身が見る必要がある。そのためには、まずは、郡指導主事、学校長、校内指導教員等が子ども中心の授業の実践例を直接見る機会を設けることが必要である。次に、それらの関係者の中から人材を発掘し、郡レベルで子ども中心の授業を実践できる人材を育成することが必要となる。そのためには、校内指導教員や校長に対して実施される定期的な研修の機会に、過去半年に行われた授業実践の中から優良事例を選び発表しあう等、優良実践例を共有する機会を設けることが重要である。また、優秀な教員を発掘し、表彰する仕組み等も考慮していく必要がある。

### 4-5 現場で使いやすい校内研修用教材の作成

校内研修用教材は、具体的な授業案（授業を行う上での留意点を含む）と、その授業案に基づいて授業を実施した後に行う授業検討会での討議で議論を活性化させるための重点項目が書かれているものを作成する予定である。研修用教材は、日本人専門家の助言を受けながら教員養成校が作成する。

作成された校内研修用教材は、対象校で使用された後、使用した教員からの意見を基により現場の状況に即したものに改善する。それを1年分まとめて製本し、他校でも使える校内研修用教材とする。この過程で、教員養成校教官が理数科教員養成プロジェクト（SMATT）で習得した技術や知識が活用され、同時に強化されることが期待される。

#### 4-6 モニタリング活動を重視

今回の調査では、ワークショップや研修を受けた後のモニタリングの重要性が多くの関係者から指摘された。プロジェクトでは、費用のかからないモニタリング活動が可能な体制の構築を目指し、中央や県からリソースパーソンを招聘することなくクラスターレベル、郡レベルでモニタリングが可能になるよう、現場レベルでのモニタリング機能を強化することを計画している。そのために、クラスターレベルでは、校内指導教員、学校長、PA（検討中）からなるクラスター技術支援チーム、郡レベルでは、校内指導教員、学校長に加え、PA、中等学校教員等から構成される郡技術支援チームを組織し、郡、クラスターレベルに複数のリソースパーソンが育成されることを計画している。このようなリソースパーソンが、TEI 教官による研修に参加することにより、能力強化を図る。

継続的なモニタリングの仕組みとしては、郡レベルの校長会等の既存の仕組みを活用する。また現場での授業モニタリングを強化するために、具体的な視点や手順を盛り込んだツールを作成することが必要である。

#### 4-7 実践と経験共有の機会を通じた郡 PA の能力強化

現場での指導に対して影響力をもち、実際に学校を訪問する郡レベルの PA が新しい指導法を理解していることが、新しい指導法が学校レベルで普及するための前提となる。今回の調査で判明したことは、郡レベルの多数の PA に対してはこれまでも多くの研修が行われているが、本業に割く時間が不十分であり、習得したことを実践する機会が少ないことこそが問題であるということであった。

したがって、プロジェクトでは、PA だけに特化した研修を行うことは想定しておらず、学校長や校内指導教員に対して行われるワークショップに郡の PA が同席することにより、新たな知識や技術を習得してもらうことを企図している。

また、PA が習得した知識や技能を実践する機会を設け、さらにその実践経験や現場における課題を郡内で共有する機会や他郡の優良事例を見る機会（スタディツアー等）を設けることにより、郡の PA の能力強化を図ることに主眼をおく。

#### 4-8 校内研修及びクラスター研修の質と持続性の関係について

プロジェクトで取り入れている校内研修とクラスター研修は、基本的には外部講師に頼らず、学校内クラスター内の同僚教員同士で実施するため、研修の質が参加者の質や取り組みによって決まる。校内研修やクラスター研修は、基本的に参加者が固定されるため、ある程度回を重ねていくにつれて参加者が学ぶことが少なくなり、活動が停滞していくことが一般的に見られる課題である。これを予防する意味で、年2回の研修教材に関する研修は、校内指導教員、校長及び郡の PA に対して技術的インプットが行われる数少ない機会として非常に重要である。研修の質が研修の継続性に影響を与えるため、研修教材に関する年2回の研修の質を高いものにしていく必要がある。

#### 4-9 対象校の選定と拡大について

プロジェクトは、全国普及が可能な校内研修のモデルを構築することを重視している。校内研修の質を確保するためには、特に校内研修を始めた時点においては、PESの主要カウンターパートや日本人専門家が実地指導を行う等手厚い支援が必要になるため、ある程度対象校の数を絞ることが必要である。他方で、県内の全郡、全小学校に広げるためには、それなりのスピード感をもって、対象校を増やす必要がある。量と質とのトレードオフの関係を十分に考慮に入れながら、対象校の選定と拡大を行う必要がある。

例えば、1年目は各対象県から3郡程度を対象郡として選び、各対象郡から1ないし2クラスターを選び、クラスター内の全学校を対象とする。2年目は、対象郡内において1ないし2クラスターを増やす。3年目には、対象郡内でさらに対象クラスターを増やしつつ、同時に対象県内で対象郡を1ないし2郡増やす。このような段階的拡大を図ることにより、国、県、郡各レベルで、対象範囲を広げていく経験を段階的に習得することを想定している。

#### 4-10 中等レベルにおけるパイロット実施について

今回の調査では、これまでほとんどドナーの支援が行われていない前期中等レベルに対する支援を望む声も多数聞かれた。若干の変更は要するものの、このモデルは中等レベルにおいても有効に機能することが他国の事例でも証明されつつある。したがって、JICAが直接支援する活動としては、中等レベルへの介入はプロジェクトの範囲内には含まれないが、近い将来に同様の校内研修・クラスター研修モデルを前期中等レベルでも導入することを考慮し、郡中心部のような便のよいところにある1~2校の中等学校で、中等レベルにおける実験的活動も並行して行うことが望ましい。

#### 4-11 全国普及モデルの開発と貧困地域校への配慮について

プロジェクトでは、全国に普及することのできる継続的校内研修のモデルを開発することを重視しているが、参加条件を設定しているため、資金的に比較的余裕のある郡や学校が対象校として選ばれる可能性が高い。その意味では、必ずしも全国のすべての学校に普及するモデルが開発されるとはいいがたい。しかしながら、これまで自国政府の資金だけで持続可能な教員研修の仕組みがほとんど存在しなかったラオスにおいて、比較的条件が整った学校が中心になる可能性が高いものの、ラオス側の資金だけで持続可能な校内研修モデルを作り、提示していく意義は大きい。したがって、プロジェクトの活動として取り込む必要はないものの、ある程度モデルが形成された段階で貧困地域の学校に対してモデルの適用を検討することを提言したい。

## 添付資料

- 1 調査日程詳細
- 2 詳細計画策定調査ミニッツ





1 調査日程詳細

調査日程

日付	調査内容
7月27日(月)	成田→ビエンチャン(原団員)
7月28日(火)	9:30 JICA事務所打ち合わせ 13:30 教育省教員教育(DTE)局表敬、協議
7月29日(水)	9:00 教育省初等・就学前教育局(DPPE) 協議 10:20 教育省中等教育局(DSE) 協議 15:00 教育省財務局(DOF) 協議
7月30日(木)	9:00 教育省人事局(DOP) 協議 10:00 ビエンチャン市バーンアカッド小学校視察 11:10 教育省教育基準質保証センター(ESQAC) 協議 13:30 EQUIP II/TTEST プロジェクトチーム協議 15:00 EDPI II プロジェクトチーム協議
7月31日(金)	ビエンチャン→サバナケット移動 13:15 サバナケット県教育局との協議 15:00 サバナケット TTC (TEI) との協議
8月1日(土)	情報整理
8月2日(日)	情報整理
8月3日(月)	09:00 サバナケット県計画投資局(DPI) 協議 10:00 カイソン郡教育局との協議 13:30 ワークショップ(サバナケット県教育局)
8月4日(火)	09:30 サバナケット TTC (TEI) との協議 13:20 学校視察(サバナケット県カイソン郡サンタナ小学校) サバナケット→ビエンチャン移動
8月5日(水)	09:00 AusAID 協議 10:30 UNICEF 協議 13:50 教育科学研究所(RIES) 協議 ビエンチャン到着(又地専門員、浅野職員)
8月6日(木)	09:50 JICA事務所打ち合わせ 11:10 在ラオス日本大使館表敬 13:30 教育省副大臣表敬 14:30 教育省との協議(DPC,DTE,DPPE,DSE,ESQAC)
8月7日(金)	09:30 ワークショップ(教育省、8TEIs) 16:30 BESDP プロジェクトチームとの協議
8月8日(土)	情報整理
8月9日(日)	ビエンチャン→サバナケット→パクセー移動 17:00 CIED プロジェクト専門家 協議
8月10日(月)	09:00 団内打ち合わせ 09:30 チャンパサック県教育局との協議 11:30 チャンパサック TTC (TEI) との協議 13:30 郡教育局 PA からの聞き取り 15:30 チャンパサック県教育局職員・PAからの聞き取り

日付	調査内容
	18:00 団内打ち合わせ
8月11日(火)	08:40 チャンパサック県計画投資局(DPI)との協議 チャンパサック→サバナケット移動 14:00 サバナケット県教育局との協議 15:30 サバナケット TTC (TEI) との協議 サバナケット→カムアン移動 21:00 団内打ち合わせ
8月12日(水)	08:30 カムアン県教育局との協議 10:30 先生からの聞き取り(タケーク郡チョムチェン小学校) 13:30 郡教育局 PA からの聞き取り 15:30 カムアン県教育局職員・PA からの聞き取り 18:00 団内打ち合わせ
8月13日(木)	09:00 カムアン県計画投資局(DPI)との協議 カムアン→ビエンチャン移動 16:30 WILLSHER 氏(元 TTEST コンサルタント)からの聞き取り
8月14日(金)	09:00 教育省との協議 14:00 クーン氏(DPPE)との協議 16:00 CIED プロジェクト専門家との協議 17:30 JICA 事務所打ち合わせ 19:00 団内打ち合わせ/PDM 作成
8月15日(土)	M/M 及び合同調査報告書準備
8月16日(日)	M/M 及び合同調査報告書準備
8月17日(月)	08:30 団内打ち合わせ 14:00 合同評価団 協議
8月18日(火)	08:30 合同評価団 協議 14:00 M/M 署名式 16:00 JICA 事務所報告
8月19日(水)	10:00 大使館報告 ビエンチャン発→
8月20日(木)	→成田着

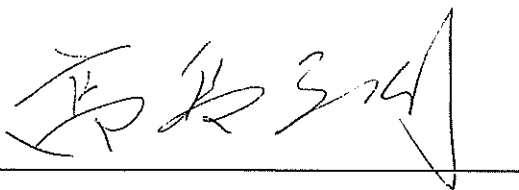
**MINUTES OF MEETING**  
**BETWEEN**  
**THE JAPANESE DETAILED PLANNING SURVEY TEAM**  
**AND**  
**THE GOVERNMENT OF LAO PDR**  
**ON**  
**JAPANESE TECHNICAL COOPERATION**  
**FOR THE PROJECT FOR IMPROVING IN-SERVICE TEACHER TRAINING**  
**FOR SCIENCE AND MATHEMATICS EDUCATION**

The Japanese Detailed Planning Survey Team (hereinafter referred to as “the Team”), organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) visited Lao People’s Democratic Republic (hereinafter referred to as “the Lao PDR”) from July 27 to August 19, 2009 in order to discuss the framework of the Project for the Improving In-service training for Sciences and Mathematics Education (hereinafter referred to as “the Project”) with the Government of Lao PDR.

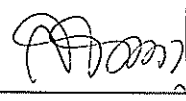
During its stay in Lao PDR, the Team exchanged views and had a series of discussions with the authorities concerned of Lao PDR on the formulation of the Project.

As a result of the discussions, both the Lao side and the Team drew up the Project in the document attached hereto.

Vientiane, August 18, 2009



Mr. Hiroaki TAKASHIMA  
Chief Representative  
Japan International Cooperation Agency  
Laos Office  
Japan



Mrs. Sengdeuane LACHANTHABOUN  
Vice Minister  
Ministry of Education  
Lao PDR

ATTACHED DOCUMENT

TABLE OF CONTENTS

Attendance List

List of Abbreviations and Acronyms

**1. Introduction** .....1

1-1 . Background of the Detailed Planning Survey .....1

1-2 . Objective of the Survey .....1

1-3 . Detailed Planning Survey Team.....2

1-4 . Schedule of the Survey .....2

**2. Basic Design of the Project** .....2

2-1. Basic Framework of the Project.....2

2-2. Basic Principle of the Project.....3

2-3. Title of the Project.....4

2-4. Target Provinces .....4

2-5. Duration of the Project.....4

2-6. Objectives of the Project .....5

**3. Project Management** .....5

3-1. Project Implementation Structure .....5

3-2. Responsible Agency .....5

3-3. Implementing Agency .....5

**4. Inputs to be provided by Lao side and JICA side** .....6

**5. Schedule before the Commencement of the Project**.....7

**6. Evaluation results based on Five Evaluation Criteria**.....7

**7. Special Remarks** .....10

ANNEXES

- 1. Survey Team Schedule
- 2. Framework of Project Activities(tentative)
- 3. Project Implementation Structure (tentative)
- 4. Joint Coordinating Committee (tentative)
- 5. Management Committee and Technical Support Team (tentative)
- 6. Project Design Matrix (First Draft)
- 7. Plan of Operation (First Draft)
- 8. Findings of the Survey

## ATTENDANCE LIST

The discussions between the Lao authorities and the Team regarding the Project were held in Vientiane, Champasack, Savannakhet and Khammouane. The major participants are listed below:

### *Lao side:*

#### MOE

H.E. Mr. Lytou BOUAPAO	Vice Minister
H.E. Mrs. Sengdeuane LACHANTHABOUN	Vice Minister
Dr. Mithong SOUVANVIXAY	Director General, DTE
Ms. Varadune AMARATHITHADA	Deputy Director General, DTE/ Project Manager, EQIPII/TTEST Project
Mr. Maaly VORABOUTH	Acting Head, Teacher Education Evaluation Division, DTE
Mr. Khamphanh KHAMONE	Deputy Head, In-service Training Division, DTE
Mr. Bounthanh PHOMMAHAXAY	Technical Staff, DTE
Mr. Simoungkhoun VONGCHAMPA	Technical Staff, DTE
Mr. Chaleun SOUVONG	Acting Director General, DPPE
Mr. Khune XAYSANAVONGXAY	Head, Primary Education Division, DPPE
Ms. Thongmay SOUVIMONH	Head, Administration Division, DPPE
Ms. Bounpheng VIENGSOMBATH	Technical Staff, Primary Education Division, DPPE
Mr. Khonsavanh KOUNLABOUT	Technical Staff, DPPE
Dr. Bounpanh XAYMOUNTRY	Deputy Director General, DPC
Mrs. Khamphaseuth KITIGNAVONG	Deputy Director General, DPC/ Project Manager, EDPII
Ms. Vathanavanh SAYASANE	Officer, DPC
Mr. Ly FOUNG,	Director General, DSE
Mr. Banehong LADTHAVARN	Deputy Director General, DSE
Mr. Bounleua KEOMANY	Head of Division, DSE
Mr. Vanhsay NORASENG	Director, ESQAC
Mr. Panya CHANTHAVONG	Deputy Director, NESQAC
Ms. Phouangkham SOMSANITH	Director General, RIES
Mr. Viengkeo PHOMAWONG	Head of Division, DOP
Mr. Niphonh MANOUKOUNE	Deputy Director General, DOF

Champasack PES

Ms. Khemphet BAYLATRY  
Mr. Soulichack PHEESADENG  
Ms. Ketsana CHANSOUVANH  
Mr. Bounlieng LAJSOMBATH  
Mr. Phoxai VONGKHAMSAO

Head, General Education Section  
Head, TDU  
Deputy Head, TDU  
Deputy Head, Pedagogical Advisor for  
Secondary Education  
Financial Staff

DEBs in Champasack Province

Mr. Sisavath THONGPASEUTH  
Mr. Bounleuth SINNALATH  
Mr. Soukhan PATTHAVIXAY  
Mr. Pitsaphay KHAMVONGSA  
Mr. Thongkham VONGTHACHACK  
Mr. Khamfong HOMSOMBATH

Deputy Director, Pakse District  
Head, TDU, Pakse District  
Head, TDU, Sanasomboun District  
Director, Sanasomboun District  
Head, TDU, Phongthong District  
Director, Phongthong District

Pakse TTC

Mr. Khampien MEKCHONE  
Mr. Phone PHOUVANNO  
Mr. Samlane THAVITHONG

Director  
Deputy Director  
Lecturer

Champasak DPI

Mr. Phatthakhone SYHAVONG  
Ms. Naly SOUKSILIVONG  
Mr. Lamphone SOUVANNAVONG

Head, International Relation Section  
Deputy Head, International Relation Section  
Technical Staff

Savannakhet PES

Mr. BounGnong CHANNIGNAVONG  
Mr. Somsanouk BOUPHANAKHON  
Mr. Khamphai SYSENGCHAN

Deputy Director  
Head, General Education Section  
Deputy Head, TDU

DEBs in Savannakhet Province

Mrs. Lingthong SENGTAIVANH  
Mr. Bounbang INTAPANGNA  
Mr. Bapha RAJPHONH  
Mr. Phouvieng VORACHACK  
Mr. Hom XAYSONGKHAM  
Mr. Noi KEODOUANGDY

Deputy Director, Kaison District  
Head, TDU, Kaison District  
Deputy Director, Songkhone District  
Pedagogical Advisor, Songkhone District  
Deputy Director, Outhumphone District  
TDU, Outhumphone District

Savannakhet TTC

Mr. Kung XAYASANE

Director

Mr. Thongkhene KHAMSOUKTHAVONG Lecturer  
Mr. Phoxay PHILAVONG Lecturer

Khammouane PES

Mr. Douane PAKANXAY Director  
Mr. Bout KENTHALANGSY Head, Financial Section  
Mr. Bounhome XAYAVONG Head, Teacher Development Unit  
Mrs. Khamsongka XAYACHANTHA Pedagogical Advisor, Secondary Education

DEBs in Khammouane Province

Ms. Phitsamay SAVATVONGSA TUD, Thakek District  
Ms. Ounla MAHAPHOM Pedagogical Advisor, Thakek District  
Mr. Latsomphone SAYASANE Pedagogical Advisor, Thakek District  
Mr. Gnonhkham PAMANIVONG Director, Hinboun District  
Mr. Saykham ANOUVONG Deputy Head, TDU, Hinboun District  
Mr. Sengphet PHONGOUDOME Deputy Director, Mahaxay District  
Ms. Chitdalay VANHNAPHONG Deputy Head, TDU, Mahaxay District

Khammouane DPI

Mr. Daolay KEODOUANGDY Deputy Director  
Mr. Anouloun MARKVILAY Deputy Head, Evaluation Section  
Mr. Viliam PHOMVONGSA Technical Staff  
Mr. Khounma CHANSY Technical Staff  
Mr. Khamphouvanh SONPHO Technical Staff

Chomcheng Primary School, Thakek District, Khammouane Province

Ms. Vilack SOUTTHICHANCK Principle  
Mr. Homxay HACKSANIKHONE Academic Teacher

Other TEIs

Mr. Somluay SOUTIYATHAI Director, Luang Prabang TTC  
Mr. Nolasing FONGMIXAY Deputy Director, Luang Namtha TTS  
Mr. Vanny YANGCHIAMOUA Director, Khangkai TTC  
Mr. Oudone THAPVONGSA Director, Bankeun TTC  
Ms. Singthong SISAVATH Representative, Dongkhamxang TTS  
Mr. Somhuang TAVANSY Deputy Director, Saravane TTS

Donor Side:

ADB

Mrs. Khamtanh CHANTHY

Senior Project Implementation Officer

AusAID

Mr. Tim NAPPER

Second Secretary (Development Cooperation)

Mr. Mike LALLY

Education Consultant

UNICEF

Ms. Jill ZARCHIN

Project Officer (Basic Education & Gender Equality)

Other

Ms. Michel WILLISHER

Education Advisor (ex-TTEST Consultant)

*Japanese side*

EOJ

H.E. Mr. Masaaki MIYASHITA

Ambassador

Ms. Akiko TOMITA

Second Secretary

MOE

Ms. Masako IWASHINA

Japanese Expert for the CIED Project

JICA Laos Office

Mr. Koichi TAKEI

Senior Representative

JICA Detailed Planning Survey Team

Mr. Hiroaki TAKASHIMA

Chief Representative, JICA Laos Office

Mr. Atsushi MATACHI

Senior Education Advisor, JICA HQs

Ms. Sumiko ASANO

Program Officer, Human Development Department, JICA HQs

Ms. Makiko IWASAKI

Representative, JICA Laos Office

Mr. Anolack Chanpasith

Program Officer, JICA Laos Office

Mr. Yoshihisa HARA

Consultant (evaluation analysis), Department Head VSOC Co., Ltd.



## LIST OF ABBREVIATIONS AND ACRONYMS

ADB	Asian Development Bank
AT	Academic Teacher
AusAID	Australian Agency for International Development
BEGP/LABEP	Basic Education for Girls Project/ Lao-Australia Basic Education Project
BESDP	Basic Education Sector Development Program
CIED	Supporting Community Initiatives for Primary Education Development in the Southern Provinces
C/P	Counterpart Personnel
CPD	Continuous Professional Development
DEB	District Education Bureau
DOF	Department of Finance
DOP	Department of Organization and Personnel
DPI	Department of Planning and Investment
DPPE	Department of Primary and Pre-school Education
DSE	Department of Secondary Education
DTE	Department of Teacher Education
EDPII	Second Education Development Project
EFA	Education for All
EOJ	Embassy of Japan
EQPII/TTEST	Second Education Quality Improvement Project/ Teacher Training Enhancement and Status of Teacher Project
ESDF	Education Sector Development Framework
ESQAC	Education Standard and Quality Assurance Center
JCC	Joint Coordinating Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
MC	Management Committee
M/M	Minutes of Meeting
MOE	Ministry of Education
PA	Pedagogical Advisor
PES	Provincial Education Service
R/D	Record of Discussions

RIES	Research Institute for Education Sciences
SBT	School-based Training
SMATT	Improving Science and Mathematics Teacher Training
TDU	Teacher Development Unit
TEI	Teacher Education Institution
TESAP	Teacher Education Strategy 2006-2015 and Action Plan 2006-2010
TG	Teachers' Guidebook
TST	Technical Support Team
TTC	Teacher Training College
TTS	Teacher Training School
UNICEF	United Nations Children's Fund
VEDC	Village Education Development Committee

## **1. Introduction**

### **1-1. Background of the Detailed Planning Survey**

As one of the top prioritized sectors in contributing to poverty reduction in Lao PDR, various efforts have been made in the education sector under the following three pillars: (1) improvement of equitable access; (2) improvement of quality and relevance; and (3) improvement of administration and management. Although the enrollment rate in the primary education has been improved, other indicators that are related to the quality of education, for example, repetition, drop-out, and completion rates have not been improved as expected.

With these backgrounds, the Education Sector Development Framework (ESDF) places an emphasis on the improvement of teachers' quality by strengthening the capacity of in-service training.

Japan International Cooperation Agency (JICA) has supported the improvement of teacher education through the Project for Improving Science and Mathematics Teacher Training (SMATT) from 2004 to 2008, which aimed at improving quality of teacher education institution (TEI) science and mathematics teachers. Training contents and learner-centered approaches of SMATT have been recognized as relevant and useful for persons and organizations concerned. Recognizing these achievements and impacts of SMATT project, the government of Lao PDR requested the continuous support to enhance and expand the outputs of SMATT project to the school level. In response to the request, the government of Japan has decided to dispatch the Detailed Planning Survey Team in order to collect necessary information and to discuss with the Lao authorities concerned the detail design of the Project.

### **1-2. Objectives of the Survey**

The Main objectives of the survey are as follows:

- 1) To clarify the real needs and demands in the education sector in Lao PDR;
- 2) To identify a sustainable in-service training model in Lao PDR;
- 3) To collect necessary information, especially on the continued activities related to SMATT, and discuss the design of the project with the Lao authorities concerned; and
- 4) To design the technical cooperation project based on the requests by Lao side.



### 1-3. Detailed Planning Survey Team

#### Japanese Side

Mr. Hiroaki TAKASHIMA	Team Leader	Chief Representative, JICA Laos Office
Mr. Atsushi MATACHI	Education Planning	Senior Education Advisor, JICA HQ
Ms. Sumiko ASANO	Cooperation Planning 1	Program officer, JICA HQ
Ms. Makiko IWASAKI	Cooperation Planning 2	Representative, JICA Laos Office
Mr. Anolack Chanpasith	Cooperation Planning 3	Program officer, JICA Laos Office
Mr. Yoshihisa HARA	Evaluation Analysis	Department Head, VSOC Co., Ltd

Ms Aya ARAKAWA, Education Advisor to MOE, and Mr. Kunihiko INOKUCHI, OJT staff to JICA Laos office, accompanied the survey team.

#### Lao Side

Mr. Simoungkhoun VONGCHAMPA	DTE, MOE
Ms. Bounpheng VIENGSOBATH	DPPE, MOE

### 1-4. Schedule of the Survey

JICA dispatched the Team to Lao PDR from 27 July to 19 August 2009. For details, refer to ANNEX1.

## 2. Basic Design of the Project

### 2-1. Conceptual Framework of the Project

This project is aimed at improving the teaching methods of primary school teachers in mathematics and science by strengthening “internal supervision” which is opportunities for teachers to learn from each other at the school level.

The “Minister’s Agreement of Supervision of General Education” issued in January 2007 mentions the necessity of internal supervision at the school level and stipulates the procedure for it. Through the interviews conducted during the survey, the Team has also acknowledged that some kinds of internal supervision are implemented in most of the districts interviewed.

This project is designed to strengthen this existing system/practice by developing training materials to be used for internal supervision and strengthening the capacity of PAs, principals and academic teachers to manage school-based training and to deal with skills and

knowledge of child-centered teaching methods.

Materials to be used for internal supervision consist of lesson plans that describe the detail of how to conduct child-centered lessons including teaching and learning materials, and how to conduct lesson feedback sessions after lesson including main topics to be discussed at the sessions. By providing training on these materials, the capacities of principals and academic teachers of target schools to manage school-based training and child-centered teaching methods are expected to be strengthened.

The materials are to be developed by TEI lecturers who have been trained in the SMATT Project implemented from 2004 to 2008, which will make it possible to maximize the achievements of the project, and, moreover, to further strengthen the capacity of TEI lecturers.

The capacity of principals to manage school-based training is to be strengthened by developing and providing a manual that describes the detail as to how to organize and manage school-based training, and conducting training on the manual for principals. In addition to the manual and training, in order to create more opportunities for principals to discuss problems and share good practices with minimal cost, existing occasions such as school principal meeting organized at district level will be made use of.

The framework of project activities is shown in ANNEX2.

## **2-2. The Basic Principle of the Project**

One of the basic principles of the Project is placing a strong emphasis on the sustainability. It means that, even after the Project has finished, the model and system to be developed by the Project are expected to be sustained by the MOE with Lao human and financial resources. Hence, the strong ownership of MOE, PESs, DEBs and target schools is essential for the successful implementation of the Project. MOE is also expected to scale up the model to be developed in the Project to other areas of the country under its ownership.

Regarding the financial aspects, the model/system to be developed must be sustained by the financial resources currently available or budget to be secured in the near future. For example, budget necessary for school-based and cluster-based activities are expected to be borne by the schools and communities, while budget necessary for organizing workshops for academic teachers and school principals is expected to be borne by the PESs.

Considering the nature of the Project mentioned above, this project attaches a great importance to the ownership of the Lao side. Thus, as a basic principle, the Project needs to



select those PESs, DEBs, and schools which show a strong commitment to mobilize own resources in order to improve the teaching methods of school teachers by strengthening internal supervision activities. Moreover, as it is important to create a model with acceptable quality, great care should be taken in expanding target districts and schools.

In order to establish a model/system which is sustainable with Lao resources, it is necessary to minimize the cost for sustaining the model/system. Hence, the Project is focused on improving existing systems and infrastructure and minimizing additional inputs to be provided by the Project.

### **2-3. Title of the Project**

Based on the request, the title of the Project is “the Project for the Improving In-service training for Science and Mathematics Education” at the present moment. As it is suggested to change the title by considering and reflecting the design of the project, the Lao side and Japanese side will have continuous discussions before the signing of Record of Discussions (hereinafter referred to as “R/D”), and JICA Headquarters will take the necessary measures to consider the change of the title of the Project.

### **2-4. Target Provinces**

Based on the request by the government of Lao PDR and the results of this survey, it has been tentatively agreed that the following provinces are selected as the target provinces of the Project: Champasack, Savannakhet, and Khammouane.

However, the Lao side and the Japanese side also recognized that the further consideration would be needed in order to select the target provinces based on their eagerness or readiness. In that sense, there is a possibility to select one or two among these three provinces or to add another province(s). MOE will consult with the provinces and will take the necessary measures to decide the target provinces of the Project by the time of signing R/D.

### **2-5. Duration of the Project**

The duration of the Project will be three (3) years and eight (8) months from February, 2010 to October, 2013. The commencement of the Project is subject to the progress of preparation by the both parties.



## **2-6. Objectives of the Project**

### **(1) Overall Goal**

Quality of teaching and learning in target provinces is improved.

### **(2) Project Purpose**

Teaching methods of science and mathematics in target primary schools are improved.

### **(3) Outputs**

- 1) Management system of school-based training (SBT) is strengthened.
- 2) Human resources for supporting the management system of SBT are strengthened.
- 3) Training materials in response to the reality of primary schools are developed for SBT.

## **3. Project Management**

### **3-1. Project Implementation Structure**

Tentative project implementation structure is shown in ANNEX3.

### **3-2. Responsible Agency**

DTE of MOE will bear the overall responsibilities for the Project. DTE will make necessary arrangements for the related departments within MOE, PES, DEB and other concerned parties. MOE will be responsible for overall coordination of the Project. The tentative members of the Joint Coordinating Committee are shown in ANNEX4.

### **3-3. Implementing Agency**

At the provincial level, PES will be responsible for administration and implementation of the Project activities. PES will make necessary coordination with other stakeholders and provide necessary support to the Project. In each target province, a management committee and a technical support team will be established, which is included as one of the activities of the Project.

At the district level, DEB will be responsible for administration and implementation of the Project activities. DEB will make necessary coordination with other stakeholders and will provide necessary support to the Project. In each target district, a management committee and a technical support team will be established as one of the activities of the Project.

In each target cluster, a management committee and a technical support team will be

established or strengthened, which is included as one of the activities of the Project.

The tentative members of a management committee and a technical support team are shown in ANNEX5.

#### 4. Inputs to be provided by Lao side and JICA side

The both sides have agreed on the cost sharing between the Lao and JICA sides as shown below.

Items		Lao Side		JICA
		Central	Provincial	
	Assignment of Counterparts	●		
	Expense for counterpart Personnel (Traveling cost etc.)	●		
	Office space and necessary facilities in MOE and PESs	●		
	Dispatch of Experts			●
	Training abroad			●
	Vehicle			●
	Expense for conducting school-based training and cluster-based training		● (School and Community)	
	Expense for conducting WS/ Meeting for School Principals		●*	
	Expense for conducting WS/ Meeting for Academic Teachers		●*	
	Expense for conducting Monitoring			
	➤ MOE	●		
	➤ Provincial PAs		●	
	➤ District PAs		●	
	➤ Cluster Technical Support Team		● (School and Community)	
	Expense for materials for WS and Meeting (papers, scissors, etc)			
	➤ Provincial			●
	➤ School		●	



\*Although the expense for the first WSs/ Meetings in the Project could be covered by the JICA side, the expense for the continuous WSs/Meeting after the second year of the project should be covered by the Lao side.

\*Detail costing will be made and agreed before signing R/D.

## **5. Schedule before the Commencement of the Project**

It is expected that R/D will be signed at the end of October 2009 in order to commence the Project in February 2010.

Counterpart personnel will be assigned by MOE by the time of signing the R/D. Other issues written in this document need to be completed that are supposed to be done by the signing of the R/D.

## **6. Evaluation results based on Five Evaluation Criteria**

As a result of an evaluation from the viewpoints below, the Team has judged that the design of the Project is feasible and worth implementing and that implementing the Project is appropriate. The following evaluation was made regarding the design of the Project, namely, whether the structure of the project plan is adequate and whether the components of the Project are feasible.

The detailed findings of the survey are described in ANNEX8.

(1) Relevance: For the following reasons, the Project is judged to be of high relevance:

*Relevance is the validity of the Project in connection with the development policy of the Government of Lao PDR.*

- Policy papers describe strong needs of human resource development and give top priority to education. Lao government emphasizes the provision of sufficient number of teachers with higher quality. To realize this, MOE encourages schools to implement internal supervision and some schools have already started its activities. Since the Project promotes practices of lesson planning, lesson observation and feedback sessions, internal supervision will be enhanced.
- Continuous Professional Development (CPD) is encouraged by the major policy documents, namely, the Educational Law, TESAP, and National Education System Reform Strategy.
- The Primary Education Curriculum and the Lower-secondary Curriculum of Lao PDR

require teachers to apply child-centered approach.

- Although the lecturers still have their strong will to disseminate those outcomes to school teachers, TEI lecturers have no regular activities to assist school teachers. Through the Project, TEI lectures are expected to make use of the achievements of SMATT.
- The Project promotes collaboration between PESs and TEI lecturers in developing training materials and providing training to academic teachers and principals on child-centered approach.
- Cluster-based teachers' activities are practiced at the primary level in some areas. Such activities are expected to be more effective by strengthening the management and technical inputs.

(2) Effectiveness: Through the steady practice, the Project promises to be effective:

*Effectiveness is the possibility of the achievement of Project Purpose by means of Outputs.*

- The Project Purpose is clearly stated as “Teaching methods of science and mathematics in target primary schools are improved” and the meaning of “improvement of teaching methods” is specified as indicators. Furthermore, the indicators will be set through the baseline survey reflecting the actual situation of the teaching practices of the teachers.
- Since the selection of pilot districts will be based on their voluntary will and eagerness, the ownership of school principals and academic teachers in implementing school-based and cluster-based activities are expected to be high. Moreover the preparedness of the target schools is expected to be high, because only schools which meet the criteria are selected.
- The Outputs consist of management, manpower, and materials, which cover the most of the important elements for the success of training programs.
- School-based training with lesson planning, lesson observation and feedback sessions is effective way to improve teachers' teaching capabilities. However it requires continuous practice with maintenance of appropriate quality. The Project encourages PAs to visit schools frequently.

(3) Efficiency: For the following reasons, the Project promises to be efficient:

*Efficiency is the appropriateness of Inputs in comparison with the expected Outputs in terms of timing, quality and quantity.*

- The Project maximizes existing systems and resources.

- 1) Internal supervision, basic mechanism of the training program, has already started its operation.
- 2) Cluster system, which is an opportunity for the teachers to learn each other, exists already.
- 3) The Project involves TEI lecturers, who had been trained through SMATT Project.
- 4) In Lao PDR, communities traditionally support schools, which will ensure the budget availabilities of school-based training and cluster-based training.
  - Roles and responsibilities of agencies concerned are mostly defined, which will ensure the smooth implementation of the Project.
  - By training at least 900 primary school teachers in the Project period, 27,000 students are expected to enjoy the new teaching methods through the Project. It will cover at least 3 % of teachers and students in the country.

(4) Impact: The impact of the Project is expected to be as follows.

*Impact is the possible influences, both positive and negative, caused by the Project.*

- The overall goal “Quality of teaching in target provinces is improved” is considered achievable within three to five years after the end of the Project if school-based training is continued regularly and technical inputs by TEI lecturers are continued to stimulate teachers’ practices.
- Compiled sets of training materials are expected to be used by non-target schools, if the materials are well developed for self-study.
- The Project will give an opportunity to get feed back comments from target primary teachers and to reflect them to improve training materials. In addition, TEI lecturers can monitor how their graduates are teaching in the field.
- If the quality of school-based session is low, there will be a possibility that it could be a humdrum.
- The Project may bridge the gap between pre-service and in-service training by increasing the opportunities for TEI lecturers to get contact with school teachers.

(5) Sustainability:

*Sustainability is the viability of the achievement of the Project after the Project’s completion.*

Taking sufficient consideration and appropriate measures, the effects of the Project are promised to be continued by Lao government after the end of the Project.

### 1) Policy aspects

- MOE's policy encourages teachers to practice internal supervision continuously; it maintains the effects of the Project through SBT activities. If internal supervision is accredited, it will promote teachers' self-help efforts even more.
- The Primary Education Curriculum requires teachers to apply child centered approach, which expects them to improve their teaching methods continuously.

### 2) Technical aspects

- The Project is designed to provide technical inputs to groups of trainers, namely, PAs, principals and academic teachers, in order for the transferred knowledge and skills to be maintained as institutional memory.
- School-based training needs to be maintained with appropriate quality to attract teachers. To maintain the quality of SBT, monitoring and/or external supervision should be conducted continuously and regularly.

### 3) Organizational aspects

The Project is operated by the joint effort of several organizations. A peer review will be needed on the roles and functions. If needed, some suitable adjustments should be made.

### 4) Financial aspects

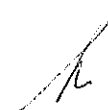
- The Project requires the communities to bear the training costs for school-based and cluster-based training. The legal support to the Project should be provided to encourage the communities to do so, for instance, through the guideline on Village Education Development Committee.
- Most important activity to control the quality of the Project is training for principals and academic teachers. PES is requested to allocate a budget for this. In case it is difficult, PES should find any source for this.

## 7. Special Remarks

### 7-1. Special issues to be considered

#### 1) Importance of continuity and time-taking process of school-based training

It takes time to see improvements in teaching methods of teachers through



school-based training as this approach is aimed at gradually improving actual practices at classroom. Therefore, it is important and essential to frequently continue school-based training during a certain period, for instance, every month for three years.

**2) Necessity of securing budget**

Both PESs and schools will be required to secure the budget necessary to implement some of the activities. For example, PESs will need to cover the cost for training for academic teachers, principals and district pedagogical advisors to be organized twice a year. Schools and communities will also be required to cover the cost for teachers to organize school-based training and to participate in cluster-based activities. Thus, criteria for selecting provinces, districts and schools should include financial commitment and availability.

**3) Necessity of close collaboration between two different Departments**

In this project, departments and units under different organizational lines of command, namely, DTE and DPPE, are required to work closely, for example, at the provincial level, TEIs, under the supervision of DTE, will develop materials to be used for school-based training, and General Education Unit at PES, will give instruction on internal supervision and monitor school-based and cluster-based activities. Hence, it will be important to create opportunities and to develop tools which will make them work together, for example, collaborative planning between TEIs and PESs.

**4) Importance of providing opportunities to observe child-centered lessons**

Interviews conducted during the Survey have revealed that opportunities to observe child-centered lessons are not enough for many teachers and PAs at district level. It is quite important to observe lessons which actualize the child-centered approach in order to improve teaching practices. Then, among those teachers who observe actual lessons, it is crucial to find and train teachers who can implement child-centered lessons. One of the ways to do so is to create opportunities for teachers to demonstrate good practices of lessons in the workshops to be organized twice a year.

**5) High quality of training materials to be used for school-based training**

Quality of the materials to be used for school-based training is important. In order for the training materials to be used for self-study, the materials should include detail



lesson plans to be demonstrated by school teachers and viewpoints of lesson observations, and points to be discussed in the feedback sessions after the demonstration lessons. The materials are to be developed by TEI lecturers in collaboration with Japanese experts. Then, the materials that will have used in school-based training will be revised by accommodating comments to be made by teachers who used the materials so that the materials will be more applicable to the actual classroom situation. The revised materials will be compiled annually to a set of materials to be used for school-based training for other schools. This process is expected to utilize and strengthen the capacity of TEI lectures.

**6) Emphasis on monitoring of school- and cluster-based activities**

Many interviewees during the survey pointed out the importance of monitoring after participating in training. In this project, in order to minimize the cost for monitoring, capacity to do monitoring at the school, the district and the cluster levels will be strengthened. In order to develop capacities at the school, the district and the cluster levels, district technical support teams and cluster technical support teams are to be formed consisting of academic teachers, principals and district PAs who are capable in mathematics and science teaching. This will enable districts and clusters to have more than one resource persons. In order to strengthen the capacity of these resource persons, they will participate in training to be organized by PES in collaboration with TEI lecturers twice a year. VEDC are also encouraged to involve in monitoring process at each target school to further promote community support to the school-based and cluster-based training. Principal meetings will be utilized to report and discuss the results of monitoring. Monitoring tools to be used for school monitoring including lesson observation tools will be also developed.

**7) Strengthening the capacity of DEB PAs through experience sharing**

Some of the interviewees during the survey have pointed out that PA' s understanding of child-centered teaching methods is essential to popularize the teaching methods. Although this project does not plan to organize specific training for DEB PAs at this stage, they are expected to learn the new teaching methods and monitoring tools by joining the training which will be organized for principals and academic teachers. Instead of providing further training for PAs, they will be provided opportunities to meet together with other PAs from other districts to share experiences, discuss issues and learn from others' experiences.



8) **Relationship between quality and the sustainability of school-based training**

Since the participants of school-based training are basically fixed, quality of the training can be determined by the quality of the participants. In particular, after the training conducted many times, school-based activities are likely to be stagnant because what the participants can learn from other colleagues is decreased. Thus, training workshops to be organized twice a year for academic teachers, principals and DEB PAs will be highly important as the opportunities for them to acquire new knowledge and skills that will activate the school-based training.

9) **Selection and expansion of target schools**

In order to ensure the quality of school-based training, frequent monitoring is needed by PES PAs, DEB PAs and Japanese experts, in particular, at the beginning stage. Hence, the number of the target schools should be limited at the beginning and increased carefully. Thus, it is recommended to work with the same target schools at the first two years to ensure the quality of school-based training and to increase the number of schools gradually from the third year by showing other schools the achievements of the first two years.

10) **Consolidation and Synergy with other projects**

At the present, MOE implements EQIP II/TTEST, which also emphasizes the active learning. In the Project, the lessons learned from EQIP II/TTEST shall be integrated as consolidated efforts.

11) **Pilot schools for lower secondary level**

During the survey, in addition to the primary level, some interviewees mentioned the needs for targeting the secondary level at which very few projects have been implemented so far. Experiences of JICA in other countries have proved that the model/system to be developed in the project at primary level can be also workable at secondary level with some modification. Hence, although the project will focus on the primary level, it is recommended to select a few secondary schools, for example demonstrating schools, and implement the similar activities in order to collect information to be used for the expansion of the model/system to secondary level in the near future.

END



### Survey Team Schedule

Date	Activity
27 Jul. (Mon)	Arrival in Vientiane (Mr. HARA)
28 Jul. (Tue)	09:30 Meeting among the Japanese Team Members 13:30 Interview with DTE, MOE
29 Jul. (Wed)	09:00 Interview with DPPE, MOE 10:20 Interview with DSE, MOE 15:30 Interview with DOF, MOE
30 Jul. (Thu)	09:00 Interview with DOP, MOE 10:00 Visit Ban Akad Primary School, Vientiane (Class Observation) 11:10 Interview with ESQAC, MOE 13:30 Interview with EQIPII/ TTEST team 15:00 Interview with EDPII team
31 Jul. (Fri)	Move to Savannakhet 13:15 Interview with Savannakhet PES 15:00 Interview with Savannakhet TTC
1 Aug. (Sat)	Summarize Information
2 Aug. (Sun)	Summarize Information
3 Aug. (Mon)	09:00 Interview with DPI 10:00 Interview with Kaison DEB 13:30 Workshop at Savannakhet PES
4 Aug. (Tue)	09:30 Interview with Savannakhet TTC 13:20 Interview with teachers, Sounthana Primary School, Kaison District Move to Vientiane
5 Aug. (Wed)	09:00 Interview with AusAID 10:15 Interview with UNICEF 13:50 Interview with RIES Arrival in Vientiane (Mr. MATACHI and Ms. ASANO)
6 Aug. (Thu)	09:50 Meeting with JICA Laos Office 11:10 Courtesy Call to EOJ 13:30 Courtesy Call to Vice Minister of Education 14:30 Meeting with MOE (DPC, DTE, DPPE, DSE, ESQAC)
7 Aug. (Fri)	09:30 Workshop with MOE and 8TEIs 16:30 Interview with BESDP team
8 Aug. (Sat)	Summarize Information
9 Aug. (Sun)	Move to Savannakhet and Pakse 17:00 Interview with CIED Project Expert, Ms. IWASHINA
10 Aug. (Mon)	09:00 Internal Meeting with C/Ps 09:30 Interview with Champasack PES

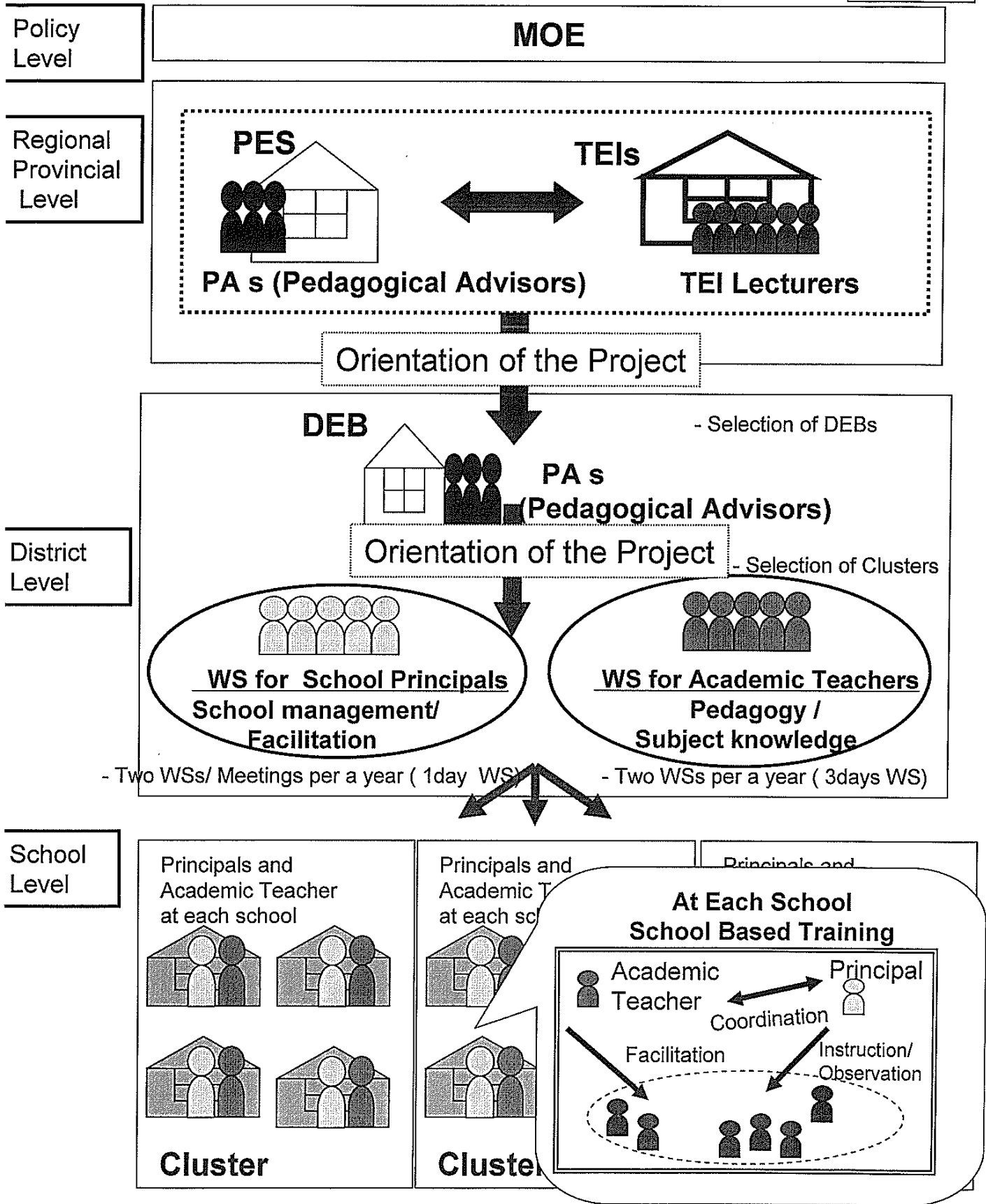





Date	Activity
	11:30 Interview with Pakse TTC 13:30 Interview with DEBs in Champasack Province 15:30 Interview with Champasack PES 18:00 Internal Meeting with C/Ps
11 Aug. (Tue)	08:40 Interview with Champasack DPI Move to Savannakhet 14:00 Interview with Savannakhet PES 15:30 Interview with Savannakhet TTC Move to Khammouane
12 Aug. (Wed)	08:30 Interview with Khammouane PES 10:30 Interview with teachers, Chomcheng Primary School, Thakhek, District 13:30 Interview with DEBs in Khammouane Province 15:30 Interview with Khammouane PES 18:00 Internal Meeting with C/Ps
13 Aug. (Thu)	09:00 Interview with Khammouane DPI Move to Vientiane 16:30 Interview with Ms. WILLSSHER, ex-consultant of TTEST
14 Aug. (Fri)	09:00 Meeting with MOE on project design 14:00 Interview with DPPE 16:00 Interview with CIED Project Expert, Ms. IWASHINA 17:30 Internal Meeting among the Japanese Team Members
15 Aug. (Sat)	Summarize Information, Preparing M/M
16 Aug. (Sun)	Summarize Information, Preparing M/M
17 Aug. (Mon)	08:30 Meeting among the Japanese Team Members 14:00 Meeting among the Joint Evaluation Team Members
18 Aug. (Tue)	08:30 Meeting among the Joint Evaluation Team Members 14:00 Signing on M/M 16:00 Report to JICA Laos Office
19 Aug. (Wed)	10:00 Report to Embassy of Japan Departure from Vientiane
20 Aug. (Thu)	Arrive in Narita, Japan

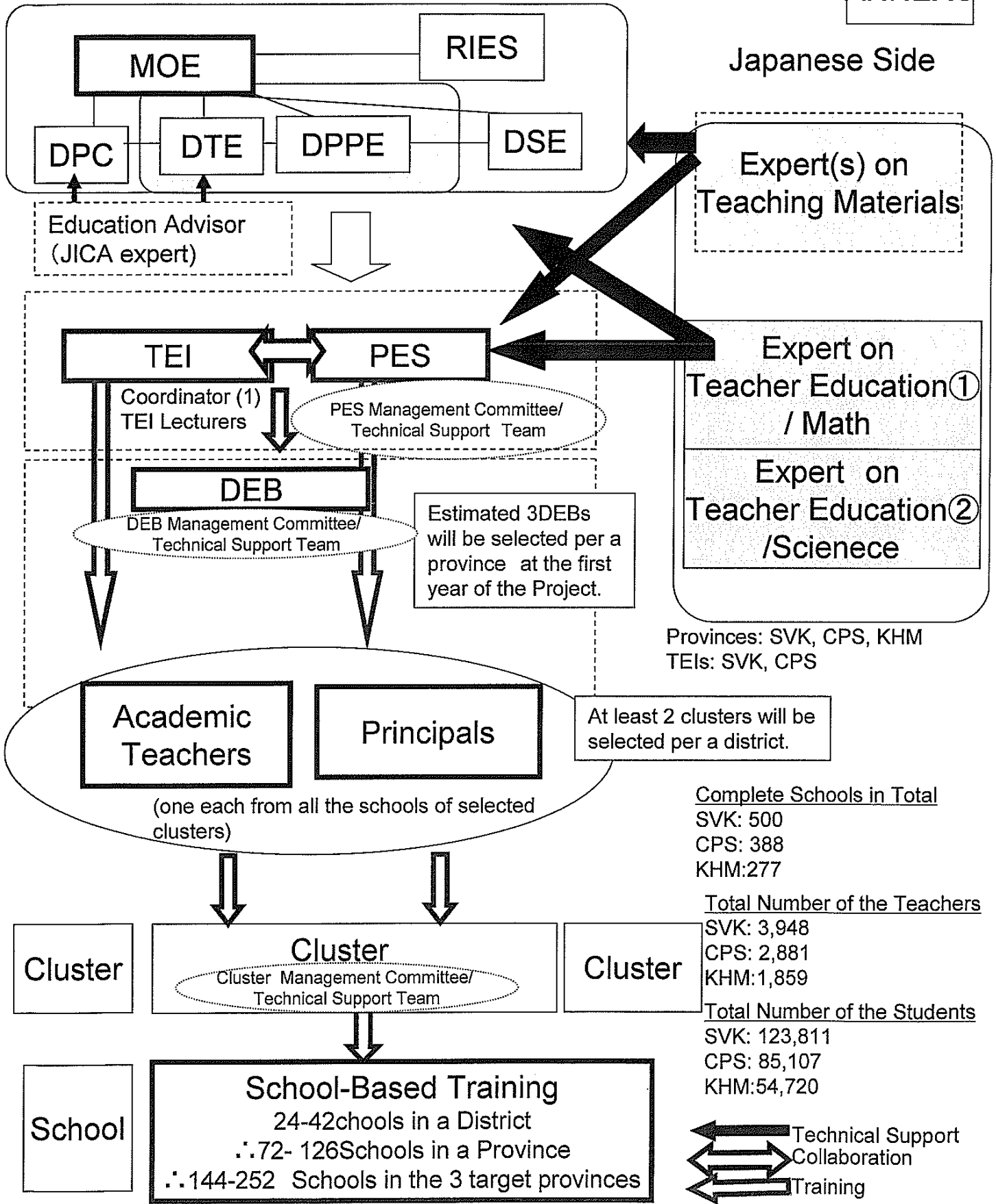
# Framework of Project Activities (tentative)

ANNEX2



# Project Implementation Structure (tentative)

ANNEX3



## Joint Coordinating Committee

The Joint Coordinating Committee, which consists of both Lao side and JICA side, shall be established as the supreme decision making body of the Project.

### 1. Functions

The Joint Coordinating Committee will meet at least once a year or whenever the necessity arises, in order to fulfill the following functions:

- (1) To discuss the Annual Plan of Operation of the Project
- (2) To review the overall progress of the Project and achievement of the technical cooperation
- (3) To make decisions on major issues arising from or in connection with implementation of the Project.

### 2. Members

#### (1) Lao Side

[MOE]

Vice Minister, Ministry of Education

Director General, DTT (Chair)

Director General, DPPE

Deputy Director General, DTT

Deputy Director General, DPPE

Deputy Director General, DSE

Deputy Director General, DPC

Deputy Director General, DOP

Deputy Director General, DOF

Deputy Director General, RIES

Deputy Director General, NESQAC

#### (2) The JICA side

Representatives from JICA Laos Office

JICA Experts

Members of JICA study team, to be dispatched when necessary

#### (3) Other member(s) accepted by the Chair, as necessary

### Management Committee and Technical Support Team (tentative)

Regarding the implementation agency, Management Committee and Technical Support Team are established at each provincial, district and cluster levels.

Tentative members and roles of the committee and team are following.

#### [Provincial level]

Management Committee	<ul style="list-style-type: none"> <li>-Director of PES,</li> <li>-Directors of DEB</li> <li>-Director s of TEI</li> <li>-Representative(s) of principals</li> <li>-Representative(s) of academic teachers</li> </ul>	- decision making at provincial level regarding the training management
Technical Support Team	<ul style="list-style-type: none"> <li>-Representative(s) of the General Education Unit, PES</li> <li>-Representative(s) of the Teacher Development Unit, PES</li> <li>-Representative(s) of the General Education Unit, DEB</li> <li>-Representative(s) of the Teacher Development Unit, DEB</li> <li>-Representative(s) of principals</li> <li>-Academic Teachers</li> </ul>	- decision making at provincial level regarding the academic matters

#### [District Level]

Management Committee	<ul style="list-style-type: none"> <li>-Director of DEB</li> <li>-Head of the principals</li> <li>-Head of the cluster heads</li> </ul>	- decision making at district level regarding the training management
Technical Support Team	<ul style="list-style-type: none"> <li>-Representative of the General Education Unit, DEB</li> <li>-Representative of the Teacher Development Unit, DEB</li> <li>-Principals</li> <li>-Academic Teachers</li> </ul>	- decision making at district level regarding the academic matters

[Cluster Level]

Management Committee	<ul style="list-style-type: none"><li>- Cluster Head</li><li>- Representatives of Academic Teacher</li><li>- Resource Person</li></ul>	
Technical Support Team	<ul style="list-style-type: none"><li>- Representatives of Academic Teacher</li><li>- Resource Person</li></ul>	



**ANNEX 6: PDM<sub>1</sub> (DRAFT)**

Project Title : Project for Improving In-service Teacher Training for Science and Mathematics Education"

Project Period : February, 2010 – October, 2013 (Three years and eight months)

Date : August , 2009

Target Area : Savannakhet, Champasack, and Kammonuane

Version : No. 1 (First DRAFT)

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p><b>Overall Goal</b></p> <p>Quality of teaching and learning in target provinces is improved.</p>	<p>High quality lesson plans made by target school teachers.</p>		
<p><b>Project Purpose</b></p> <p>Teaching method of science and mathematics in target schools is improved.</p>	<p>1. Improvement of the quality of lesson plans made by target school teachers. 2. Improvement of the score of lesson performance of target school teachers.</p>	<p>1. Evaluation result of Lesson plans made by target school teachers 2. Evaluation result of lesson observation</p>	
<p><b>Outputs</b></p> <p>1. Management system of school-based training (SBT) is strengthened.</p> <p>2. Human resources for supporting the management system of SBT are strengthened.</p>	<p>1-1. PES Management Committee (PES-MC) and PES Technical Support Team (PES-TST) are officially approved by PES, DEB Management Committee (DEB-MC) and DEB Technical Support Team (DEB-TST) are officially approved by DEB. 1-2. SBT annual plan is made in each target school. 1-3. XX % of activities in the annual plan stated in 1-2 is implemented.</p> <p>2-1 SBT annual plan is made in each target school. (same as 1-2) 2-2 XX% of activities in the annual plan stated in 2-1 is implemented. (same as 1-3) 2-3 Teachers' Satisfactory level on SBT activities increases by XX%. 2-4 The quality of AT's lesson evaluation increases by XX%, (before and after) 2-5 Test results of AT on science and mathematics subject knowledge increases by XX%. (before and after) 2-6 Number of monitoring done by district PAs. (XX% of the plan) 2-7 The quality of PAs' lesson evaluation increases by XX%. (before and after) 2-8 Attendance rate of Principals' Trainings and ATs' Trainings. (XX% of all target principals and academic teachers)</p>	<p>1-1. Agreement by PES and DEB  1-2. SBT annual plan in each target school 1-3. Record of SBT activities  2-1. SBT annual plan in each target school 2-2. Record of SBT activities 2-3. Questionnaire on SBT answered by teachers 2-4. Evaluation of AT's lesson observation reports 2-5. ATs' Test score 2-6. PAs' Monitoring report 2-7. Evaluation of PA's lesson observation reports 2-8. Record of Principals' Training and ATs' Training</p>	<p>1. The policy and direction on the Internal Supervision and External Supervision are not drastically changed by the MOE. 2. The budget for continuous SBT is secured by community.</p>

<p>3. Training materials in response to the reality of primary schools are developed for SBT.</p>	<p>3-1. Number of developed training materials developed by TEI lecturers. 3-2. Teachers' Satisfactory level of developed training materials increases by XX%. 3-3. Number of compiled training materials.</p>	<p>3-1. Developed training materials 3-2. Questionnaire on training materials answered by teachers 3-3. Compilation of training materials</p>
<p><b>Activities</b></p> <p>1-1 MOE and Provincial Education Services (PESs) conduct the baseline survey on science and mathematics education in target provinces including the identification of actual conditions of cluster activities. MOE and TEI decide the evaluation criteria of lesson plans and lesson observations.</p> <p>1-2 PESs, TEIs establish PES Management Committee (PES-MC) and PES Technical Support Team (PES-TST).</p> <p>1-3 PES-MCs decide the selection criteria of target districts and target clusters.</p> <p>1-4 PES-MCs select target districts based on the selection criteria after conducting the orientation meeting for all districts in the target provinces.</p> <p>1-5 DEBs establish District Education Bureau (DEB) Management Committee (DEB-MC) and DEB Technical Support Team (DEB-TST) in the selected target districts.</p> <p>1-6 DEB-MCs select target clusters and target schools based on the selection criteria after conducting the orientation meeting for all primary school principals in the target districts.</p> <p>1-7 DEB-MCs and school principals organize/ establish Cluster Management Committee (C-MC) and Cluster Technical Support Team (C-TST) in the selected target districts.</p> <p>1-8 Target school principals and academic teachers conduct improved SBTs.</p> <p>1-9 C-MC and C-TST conduct cluster trainings. (The timing for the introduction will be considered based on the baseline survey.)</p> <p>1-10 Target school principals advocate their community supporting schools/ enhancing the awareness to schools.</p> <p>1-11 MOE organizes the summarizing seminar to share the experiences to other donors.</p> <p>2-1 PESs conduct School Principal Trainings for strengthening the management capability of SBT.</p> <p>2-2 PESs make the manual for SBTs.</p> <p>2-3 PESs and Teacher Education Institutes (TEIs) conduct Academic Teacher (AT) Trainings for improving teaching methodology and subject knowledge.</p> <p>2-4 TEI lecturers and Pedagogical Advisors (PAs) in the target districts monitor SBT in the target schools. PESs organize the occasions for</p>	<p><b>Inputs</b></p> <p>Japanese side</p> <p>1. Personnel Experts Chief Advisor /Teacher Education Management 1 Teacher Education Management 2 *Two experts above have the expertise of either science or mathematics. Teaching Materials (Science) Teaching Materials (Mathematics)</p> <p>2. Training of counterpart personnel in Japan.</p> <p>3. Provision of equipment Provision of machinery and equipment necessary for the project activities</p> <p>4. Local expenses for JICA Experts</p>	<p>Lao side &lt;Central Level&gt;</p> <p>1. Counterpart personnel 2. Expense for counterpart personnel (travelling cost etc.) 3. Office space and necessary facilities in MOE for the Japanese experts. 4. Other local expenses</p> <p>&lt;Provincial Level&gt;</p> <p>1. Counterpart personnel 2. Office space and necessary facilities in PESs for the Japanese experts. 3. Expense for trainings (travelling cost, meeting place, coffee break) 4. Expense for monitoring (travelling cost of TEI lectures and PAs in districts) 5. Other local expenses</p> <p><b>Pre-conditions</b></p> <p>1. MOE commits the strengthening of Internal Supervision and External Supervision in both budgetary and implementation aspects. 2. There are districts and schools in target provinces which commit the strengthening of Internal Supervision and External Supervision in both budgetary and implementation aspects</p>



	<p>experience exchange among PAs in target districts.</p> <p>2-5 TEI lecturers implement in-house trainings in order to strengthen capability for lesson observation and teaching material development.</p> <p>3-1 PESs and TEIs make the development plan of training materials for SBT based on the annual teaching plan in the target provinces.</p> <p>3-2 TEI lecturers make training materials (including model lesson plans and their manuals) for SBT.</p> <p>3-3 TEI lecturers improve the training materials reflecting the teachers' comments from target schools.</p> <p>3-4 MOE and PES compile improved training materials and distribute them to new target schools.</p>
--	---

2

28



## Findings of the Survey

### 1. Status of the outcomes of SMATT project

Final evaluation mission of SMATT project left several suggestions in 2007 to maintain its gains. Through the series of interviews and observations, the Team identified the followings;

- TEI Directors and lecturers still maintain their strong will to disseminate what they have learnt through SMATT project to primary and secondary teachers;
- TEI teachers apply the concept of “child-centered learning practice” to their lectures. They also prepare a special program on this topic for student-teachers just before their teaching practice;
- Some local workshops were planned but only few are implemented because of the shortage of the time and financial support;
- TGs are utilized in the lectures at TEIs. Those are not revised, yet added some information; and
- TEI lecturers introduce the concept of “child-centered learning practice” and TGs to the participants of “Teacher Upgrading Program”.

The Team concluded that the outcome of SMATT project is recognized useful here in Lao PDR, and should be utilized in primary and secondary schools. However, it is still required to find some suitable ways to disseminate those gains to school teachers intentionally.

### 2. Strategies and Policies of the Lao Side

In Lao PDR, education is considered as one of the top prioritized sectors to contribute poverty eradication. To tackle with this big challenge, conscious efforts are being made under the following three pillars; (1) improvement of equitable access to education, (2) improvement of quality and relevance, and (3) improvement of administration and management. Those are clearly stated in “Sixth Five-Year Socio-Economic Development Plan (2006-2010)”, “National Growth and Poverty Eradication Strategy (2004)”, “Five Year Education Development Plan” and “Education for All (EFA) National Plan of Action 2003-2015”.

Lao Government is taking several measures to improve the capabilities of classroom teachers because the improvement of the quality of education should be done through the improvement of the quality of lessons. To embody this strategy, Ministry of Education issues decrees and guidelines to make a clear image of capable Lao teachers and the ways to realize it. Especially “Teacher Education Strategy 2006-2015 and Action Plan 2006-2010 (TESAP)” and “Education Sector Development Framework” encourage the teachers to practice Continuous Professional Development (CPD).

### 3. Implementation of In-service teacher training (including Donor's project)

However, there is no regular In-service teacher training program which provides an equal opportunity to all the teachers in the country. According to the result of the interviews, main reason seems to be the absence of firm system for teacher training and shortage of its budget. Even though MoE feel the strong needs of the training for teachers, it is not easy to allocate enough budgets.

In response to this, several donors provide their assistance for In-service teacher training. In Lao PDR, In-service teacher training programs are classified into two categories; one is accredited and others are not. Accredited training is only Teacher Upgrading Program, which provides required qualification for low qualified and unqualified teachers. This program is supported by EQIPII/TTEST project sponsored by ADB/UNICEF.

Other training programs are conducted ad-hoc base by donors’ projects and are not accredited. Those are focusing on multi-grade teaching (BEGP/LABEP by ADB/AusAID and EDPII by WB), introductory training on curriculum reform for secondary level (BESDP by ADB).

#### 4. Existing system of In-service training

Teacher Upgrading Program is conducted with the resource of TEI lectures during the school holidays (Khammouane district has weekend course beside the summer course). PES and DEB identify the candidates for the course through the monitoring of Teacher Development Unit and encourage teachers to participate through principals. The teachers participate to the course on their own motive and bearing the tuition fee.

Other training programs are managed by PES and DEB with PAs and pool of trainers (TEI lecturers and academic teachers, etc.). Each PES has 22 PAs for secondary level and each DEB has 3 to 4 PAs for primary level.

Besides those mass training programs, two activities are implemented at school level. One is monitoring done by PAs. They visit schools to make interview to the principal, observe the lessons of the teachers and give some feed back. The selection of the visiting school is done following the policy which targets mainly low performing schools. However, the frequency of their visits is quite limited. Another school-based activity is conducted mainly at primary level. It is lesson observation and feedback by the principal and/or academic teacher. This is also done with co-teachers in some schools. Those activities are recognized as one part of "Internal supervision".

Cluster level activities are also implemented in some areas. The teachers in the cluster meet together at the core school to exchange ideas and share experiences on teaching. Academic teachers in the cluster also visit neighboring schools to assist each other. This visiting and PAs monitoring are called as "External Supervision".

#### 5. Analysis of the findings

Through the series of interviews and observations, the Team has found the following features in the status of In-service teacher training program so far.

- The idea of In-service teacher training program or "INSET" is considered as a kind of event, which is conducted for limited period by the projects with donors' budget. It raises the issues of sustainability of the programs.
- Many of the donors (including JICA) have introduced "new teaching method", which is called as child-centered or active learning, but the practices in the classrooms are not obvious yet.
- It may have several reasons, which are; 1) insufficient mastery of the teachers on the new teaching method and the subject contents, 2) less practice of the method with appropriate manners, 3) lack of the support materials which encourage teachers' self-help, and 4) less number of consultation by PES and DEB through PAs.

The Team has recognized the strong need of continuous self-help efforts of the teachers at the school level. To realize this Continuous Professional Development, concrete system/mechanism of in-house training and strong support of some resource persons are required. Furthermore, cluster-based training and community support are expected to reinforce this teachers' activity.

END



